

授業科目	授業番号： 375			担当者	福田忠弘 他
	人間と文化			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	夏期集中	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化という人間の営みを、人文・社会・自然諸科学の多岐にわたる分野から考察する。</p> <p>【概要】県立短期大学3学科の教員7名が、それぞれの専門分野から、さまざまな地域・時代における「文化」を異なる角度から考察する。7日間の集中した期間に多角的な知見を学ぶことで、受講生にとって時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待する。県内大学等のコーディネート科目であり、他大学等の学生も受講する。</p> <p>【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより、さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント資料配布 (2) 必要に応じて授業で指示				
授業 スケジュール	第 1回 書くという行為：記憶の共有化と客観化 (岡村(雄)) 第 2回 計算という行為：論証から説得へ (岡村(雄)) 第 3回 世界の森林と木材利用 (前田) 第 4回 日本の森林・林業の現状 (前田) 第 5回 小さな起業で生きていく (矢野) 第 6回 「デザイン経営」を知る (矢野) 第 7回 住空間と文化(1) 近世と現代 (田野) 第 8回 住空間と文化(2) 近代と現代 (田野) 第 9回 体育・スポーツ・健康と文化(1) スポーツとは (浜田) 第 10回 体育・スポーツ・健康と文化(2) 健康とは (浜田) 第 11回 日本の「唱歌」 その歴史と表現 (竹本) 第 12回 日本の「童謡」 その歴史と表現 (竹本) 第 13回 異文化コミュニケーション入門—文化摩擦はなぜ起こるのか (石井) 第 14回 異文化コミュニケーション実践—グローバル時代の文化適応 (石井) 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート2つ(85%) と毎回の授業受講状況 (15%)				
実務経験について					

授業の日程は変更となる場合があります。

授業科目	授業番号： 376			担当者	永山 修一
	日本の歴史			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2,3年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 原始～中世前期の「日本の歴史」</p> <p>【概要】 日本全体の歴史の流れを視野に入れ、十分に意識しながら、南九州から南島に生活した人々の姿を、急速な研究の深化が見られる考古～中世の範囲で、なるべく最新の情報を使用しながら概観していく。</p> <p>【到達目標】 身近な歴史に関心を持つことができ、歴史的な思考力について理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	講義毎に、興味関心を持った内容について、感想や質問事項を記し（ミニレポート）、それに対して次時に講師が回答することで、興味関心をより深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業時に配布（プリント）</p> <p>(2) 『鹿児島県の歴史』（山川出版社，1999年）原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 歴史の見方</p> <p>第 2回 資料と史料（文献）</p> <p>第 3回 資料と史料（遺物）</p> <p>第 4回 資料と史料（遺構）</p> <p>第 5回 旧石器時代・縄文時代</p> <p>第 6回 弥生時代</p> <p>第 7回 古墳時代</p> <p>第 8回 神話と伝承</p> <p>第 9回 隼人と律令制度(1)</p> <p>第 10回 隼人と律令制度(2)</p> <p>第 11回 平安時代の薩摩・大隅（1）</p> <p>第 12回 平安時代の薩摩・大隅（2）</p> <p>第 13回 奄美諸島の歴史(1)</p> <p>第 14回 奄美諸島の歴史(2)</p> <p>第 15回 鹿児島の芸能とまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	特にはなし				
成績評価の方法	授業時毎の小レポート（60%） レポート（40%）				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 377			担当者	竹本 寛秋
	日本文学・近代			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2,3年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本近代文学を多様な角度から考える</p> <p>【概要】日本近代の小説・詩などの文学テキストを、様々な観点から読み解きます。様々な観点から文学テキストを読むことで、小説の方法論、言語表現の仕組み、時代毎の価値観などを理解し、現代に生きる私達自身の問題として考える能力を身につけます。</p> <p>※対象とする小説作品は変更の可能性がある。</p> <p>【到達目標】「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p> <p>現代の社会や文化について、相対的に考え、自己の考えを形成する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回リアクションペーパーに記入してもらい、その内容に毎回教員がコメントをつけて応答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜、授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1回 ガイダンス 第 2回 梶井基次郎「檸檬」 第 3回 結核の時代と文学 第 4回 芥川龍之介「蜜柑」 第 5回 科学技術と文学 第 6回 中島敦「マリヤン」 第 7回 日本の国境と日本文学 第 8回 前半のまとめ 第 9回 萩原朔太郎「猫町」 第 10回 心理学と文学 第 11回 宮澤賢治「猫の事務所」 第 12回 原稿、草稿と文学 第 13回 太宰治「葉桜と魔笛」 第 14回 「語り」からテキストを読み解く 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	対象テキストの精読と検討。				
成績評価の方法	毎回のミニレポート (40%)， レポート (60%)				
実務経験について	なし				

(注) 隔年開講。今年度開講するかどうかは学生便覧で確認すること。

授業科目	授業番号： 378			担当者	未定
	こころの科学			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 379			担当者	陳 躍
	比較文化			授業外対応	メー ル 対 応 (chenyue0205@yahoo.co.jp)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2,3年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解とは何か：中国人と日本人はここまで違う！（中国人留学生もその他の国の留学生も大歓迎！）</p> <p>【概要】第一回から第七回までは、学生が輪になって座談会形式で、ときには寸劇やディスカッション形式でも授業を行う。</p> <p>会話パターンの日中相違、接し方の日中相違、しぐさの日中相違、名づけの日中相違、そして、恋のしかた、ファッション、娯楽、漫画、金銭感覚、就職、食、歌、幸福感など、日常生活の中から、身近なことで、日中を比較して、その相違を見つける。第九回から第十五回までは、前半の授業経験を踏まえて、ペアを組んで、興味のあるテーマをひとつ選び、それについて、自分達で調べる。さらに、教師と二人三脚で議論をしながら認識を深め、</p> <p>【到達目標】 1 中国社会を知る。 2 中国人を知る。 3 日本人と中国人との相違を知る。 4 「日本人」に関して再度認識する</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 陳 躍著『恋文の翻訳（日中おうらい）』（南日本新聞社、2006年）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 空気を読まない中国人と空気を読む日本人</p> <p>第 2 回 初対面の人にも給料を聞く中国人と夫婦しか給料を聞かない日本人</p> <p>第 3 回 店員が神様である中国と客が神様である日本</p> <p>第 4 回 イルカを食べる中国人とクジラを食べる日本人</p> <p>第 5 回 家族にはあまり「ありがとう」を言わない中国人と家族にもよく「ありがとう」を言う日本人</p> <p>第 6 回 向かい合って立ち話をしているとき、距離が近い中国人と距離が遠い日本人</p> <p>第 7 回 なれなれしい中国人とよそよそしい日本人</p> <p>第 8 回 中国映画鑑賞「海の天国」か「言えない秘密」</p> <p>第 9 回 「かまわない」をよく言う中国人と「すまない」をよく言う日本人</p> <p>第 10 回 無責任なことをかかると言う中国人と責任をとりたくないからはっきり言わない日本人</p> <p>第 11 回 その通りのことを言えば罪にならない中国人とその通りのことをいうからこそ罪になる日本人</p> <p>第 12 回 喧嘩しても引きずらない中国人と喧嘩したら必ず引きずる日本人</p> <p>第 13 回 核心にふれる話を好む中国人とあたりさわりのない話を好む日本人</p> <p>第 14 回 傍若無人な中国人と人の目ばかり気にする日本人</p> <p>第 15 回 相手との相違点を見つけて話していく中国人と相手との共通点を見つけて話していく日本人</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>プリントを参考にしながら、日頃から持っている関心や疑問、日中間のトラブルでもよい、中国人観光客への印象でもよい、その中から、気になることを一つ選び、自分の課題にし、その課題について、日中比較をし、その相違を見つけて、背後にある文化の相違を浮き彫りにするように意識し、考える。</p>				
成績評価の方法	授業への参加態度（60%）、レポート（40%）。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 380			担当者	カムチャイ・ライサミ
	アジア文化論			授業外対応	講義終了時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2,3年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アジア文化のダイナミクス アジア文化は多様性に富んでいる。文化とは何か。アジア文化の起源、変容、比較を明らかにする。</p> <p>【概要】アジア文化は世界文化の一大拠点を成している。アジアの自然や宗教などがどのようにアジア文化を育み、現代の政治・経済・社会にどのように影響を与えるか、実例を交えながら講義する。</p> <p>【到達目標】アジアの自然と主要宗教を展望し、アジア文化の多様性が理解できること。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。 (2) 必要に応じてその都度指示する。				
授業 スケジュール	第 1回 アジア文化の多様性 第 2回 文化と自然・風土 第 3回 文化と生活 第 4回 文化と経済 第 5回 文化と政治・情報 第 6回 儒教・道教の文化 第 7回 仏教文化 第 8回 イスラム教文化 第 9回 インドの宗教文化 第 10回 アジア比較文化Ⅰ：日本と韓国 第 11回 アジア比較文化Ⅱ：中国とベトナム 第 12回 アジア比較文化Ⅲ：タイとミャンマー 第 13回 アジア比較文化Ⅳ：フィリピンとシンガポール 第 14回 アジア比較文化Ⅴ：マレーシアとインドネシア 第 15回 アジア比較文化Ⅵ：インドとサウジアラビア				
授業外学習 (予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法	期末筆記試験 (100%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 381			担当者	田口 康明
	日本国憲法			授業外対応	taguchi@k-kentan.ac.jp メール
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基本的人権を中心とした日本国憲法に理解。</p> <p>【概要】 教員、公務員、会社員その他の職業に就くにせよ社会制度の多くは法によって定められている。その根本はいうまでもなく憲法である。どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、人権を主にとりあげそれらの歴史的、社会的背景をもとりあげることとする。</p> <p>【到達目標】 憲法が存在する意義について理解できる。</p> <p>日本国憲法の構造（人権）について理解できる。</p> <p>現実の問題について自分なりの見解をまとめることができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 特に定めない</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第 2 回 憲法とは何か 立憲主義を考える。</p> <p>第 3 回 日本国憲法の誕生 憲法の制定過程について学ぶ。</p> <p>第 4 回 国民主権と象徴天皇制 国民主権の意義や象徴天皇制を考える。</p> <p>第 5 回 憲法 9 条と平和主義（その 1） 憲法 9 条制定の背景等を学ぶ。</p> <p>第 6 回 憲法 9 条と平和主義（その 2） 憲法 9 条をめぐる裁判等を検討する。</p> <p>第 7 回 基本的人権（基本的人権とは） 憲法で基本的人権が保障されている意義を考える。</p> <p>第 8 回 基本的人権（基本的人権の種類と人権保障の限界） 自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。</p> <p>第 9 回 基本的人権（包括的基本権） 憲法 13 条の幸福追求権について考える。</p> <p>第 10 回 基本的人権（自由権 その 1） 内面の自由について考える。</p> <p>第 11 回 基本的人権（自由権 その 2） 人身の自由と経済的自由権について考える。</p> <p>第 12 回 基本的人権（社会権 その 1） 生存権について考える。</p> <p>第 13 回 基本的人権（社会権 その 2） 教育を受ける権利、勤労の権利について考える。</p> <p>第 14 回 基本的人権（参政権）、国民の義務 選挙権などの参政権と、国民の義務について考える。</p> <p>第 15 回 これまでのまとめと補足</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	原則、最終試験（公務員試験レベルの択一問題）によって評価するが、小レポートを課した場合、それも評価に加える。評価割合は、授業内にて示す。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 382			担当者	担当教員
	キャリアデザイン			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	通年	1単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】2年生が就職活動が始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p>【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージしうるための支援となるような内容についても学習する。</p> <p>【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	適宜紹介				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆5月14日(水)(特設時間を利用) 第1回 総論 キャリア, キャリアデザインとは ◆6月11日(水)(特設時間を利用) 第2回 自己分析 志望動機 ◆7月9日(水)(特設時間を利用) 第3回 企業研究の必要性とそのやり方 ◆9月17日(木) 3限 第4回 企業が求める人材 1 ◆9月17日(木) 4限 第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ ◆10月15日(水)(特設時間を利用) 第6回 働いて「困った」への対応方法 ◆11月6日(水)(特設時間を利用) 第7回 これから働くあなたへのメッセージ <p>(2)</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回 ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出(100%)</p>				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 383			担当者	小野 祥子
	ライフプランニング			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 将来の生活を見据え、仕事・お金・人生の選択を主体的に考える</p> <p>【概要】 今後の生活を見据え、仕事・収入・支出・資産形成などについて総合的に考える。公的機関が作成した教材をメインに用いて基礎的な仕組みを理解し、身近な事例や演習を通して将来の選択肢を整理し、自分なりのライフプランを描く力を養う。専門的な数式や理論には立ち入らず、今後の生活に活かせる基礎的な考え方の習得を目的とする。</p> <p>【到達目標】 将来の仕事・生活・お金に関する基本的な仕組みを理解し、自身のライフプランを論理的に整理できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>身近な事例やワークを通して学生自身が考え、意見を整理する機会を各回1回程度設ける。個人での記述や少人数での意見交換を取り入れ、他者の考えに触れながら、自らの将来や生活について主体的に考える力を養う。各回でいただいた質問は、次回の授業で解説を行う。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト <input type="checkbox"/>金融経済教育推進機構 (J-FLEC) 『大学生のための人生とお金の知恵』(メインテキスト) <input type="checkbox"/>日本FP協会 『学生生活マネー&キャリア』(ワーク用) <input type="checkbox"/>プリント配布</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：人生とお金を考える□「大学生が人生とお金を考える意義」 第 2回 人生は選択の連続□「人生の選択とライフイベント」 第 3回 働くこととキャリアの考え方□「働くことの意味」「キャリアと収入の関係」 第 4回 収入の仕組みと将来の見通し□「収入の種類」「学生から社会人への変化」 第 5回 給料から引かれるお金□「税金の基本」「社会保険の役割」 第 6回 生活費と家計管理□「家計管理の基本」「支出の内訳」 第 7回 貯蓄とお金の管理□「貯蓄の目的と考え方」 第 8回 お金の価値と経済環境□「金利」「物価」「お金の価値」 第 9回 はじめての資産形成□「資産形成の基本」「長期的な視点」 第 10回 お金のトラブルと判断ミス□「金融トラブル」「契約時の注意点」 第 11回 リスクと保険の考え方□「リスクへの備え」「保険の基本的な役割」 第 12回 結婚・家族とお金□「家族構成と家計」「ライフイベント別の支出」 第 13回 住まいと生活設計□「住まいにかかるお金」「住宅費の考え方」 第 14回 長い人生と将来への備え□「老後の生活」「年金の考え方」 第 15回 まとめ□全体の振り返り□学びの整理</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	各回(出席・感想・質問提出)50%、筆記試験50%				
実務経験について	<input type="checkbox"/> 保険代理店・金融機関勤務経験あり <input type="checkbox"/> ライフプラン講師(一般社会人・企業研修) <input type="checkbox"/> マネー・キャリア講師(小学校～大学) <input type="checkbox"/> FP2・3級資格取得講座講師 <input type="checkbox"/> 証券外務員二種講師				

授業科目	授業番号： 384			担当者	井村 隆介, 渡辺 俊介, 浅海 真弓 岡村 雄輝
	環境問題			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】環境問題を異なる視角から考える</p> <p>【概要】自然史（井村）、森林科学（渡部）、生活科学（浅海）、経済社会（岡村）の視点から環境問題を考える。</p> <p>【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 國部克彦（編集）、神戸 CSR 研究会（編集）『CSR の基礎』、中央経済社</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等</p> <p>第 2 回 鹿児島島の自然史（1）鹿児島と気候変動</p> <p>第 3 回 鹿児島島の自然史（2）鹿児島島の地震と火山</p> <p>第 4 回 鹿児島島の自然史（3）鹿児島島の植生史</p> <p>第 5 回 鹿児島島の自然史（4）鹿児島島の自然と人</p> <p>第 6 回 森林の科学（1）：植物の定義</p> <p>第 7 回 森林の科学（2）：陸上生態系の構造と機能</p> <p>第 8 回 森林の科学（3）：生物種間の競争と多種共存</p> <p>第 9 回 生活科学（1）：衣生活と環境問題（衣服廃棄・リサイクルの現状と課題）</p> <p>第 10 回 生活科学（2）：食生活と環境問題（食品ロスの現状と課題）</p> <p>第 11 回 生活科学（3）：環境に配慮した生活（私たちの生活の中でできる取り組み）</p> <p>第 12 回 経済社会（1）：企業と公害</p> <p>第 13 回 経済社会（2）：企業と公害</p> <p>第 14 回 経済社会（3）：企業と地球環境</p> <p>第 15 回 経済社会（4）：企業と地球環境</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	各教員の課題（20～30 点満点）×4=100 点とする				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 385		担当者	野田 ゆり子	
	英語 I (A)		授業外対応	授業前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なテーマで学ぶアカデミック・イングリッシュ</p> <p>【概要】本授業では、ニュースでよく取り上げられているテーマの平易な英文を読み、内容を理解した上で、こうしたテーマについて自分で考え、発信する力を養うことを目標としています。主としてリーディングを中心としますが、ディスカッションやプレゼンテーションなども行い、自分自身がどう思うか、なぜそう思うかを英語で説明できるようにします。</p> <p>【到達目標】平易な英文を読んで理解し、扱うテーマに基づいてグループ・プレゼンテーションを行うことで、読解力と発信力を向上させる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回グループワークを行い、授業後半ではグループ・プレゼンテーションを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Clive Langham. Steps to Academic English: Basic. Asahi Press.</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 Unit1: The Most Livable Cities in the World (前半)</p> <p>第 2 回 Unit1: The Most Livable Cities in the World (後半)</p> <p>第 3 回 Unit2: Which Is the Happiest Country in the World? (前半)</p> <p>第 4 回 Unit2: Which Is the Happiest Country in the World? (後半)</p> <p>第 5 回 Unit3: Zero Waste (前半)</p> <p>第 6 回 Unit3: Zero Waste (後半)</p> <p>第 7 回 Unit4: How Do Fashion Choices Affect the Environment? (前半)</p> <p>第 8 回 Unit4: How Do Fashion Choices Affect the Environment? (後半)</p> <p>第 9 回 Unit7: How to Boost Your Wellbeing (前半)</p> <p>第 10 回 Unit7: How to Boost Your Wellbeing (後半)</p> <p>第 11 回 Unit13: Overtourism (前半)</p> <p>第 12 回 Unit13: Overtourism (後半)</p> <p>第 13 回 Presentation Preparation1</p> <p>第 14 回 Presentation Preparation2</p> <p>第 15 回 Group Presentation</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>予習：テキストに出てくる単語を調べておく、小テスト勉強</p> <p>復習：小テストで間違った部分を見直しておく</p> <p>その他：プレゼンテーション準備</p>				
成績評価の方法	授業参加（授業での発言内容）が 30%、小テストが 40%、プレゼンテーションが 30%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 386		担当者	ジェイムズ・マレー	
	英語 I (B)		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course to practice basic English skills. 基本的な英語スキルを練習するためのコースです。</p> <p>【概要】 This course covers basic English skills such as Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension. This everyday English is useful for work, shopping, travel, etc. リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、理解力といった基本的な英語スキルを学びます。この日常的な英語は、仕事、買い物、旅行などに役立ちます。</p> <p>【到達目標】 To reinforce basic English and communicate confidently.基礎的な英語力を強化し、自信を持ってコミュニケーションをとる目的です。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Students do group conversations, pair activities, and dialogue roleplay to memorize what they learn. 学生たちはグループでの会話、ペアでの活動、そして対話のロールプレイを行い、学んだ内容を記憶します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English Firsthand 1 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 Introduction 概要説明, Conversation Practice 簡単な会話 第 2回 Unit 1: Meeting People; Personal Information 個人情報; sensitive 敏感 第 3回 Unit 1: Using Simple Present; Hobbies and Interests 趣味; (Least) Favorite 一番好き・きれい 第 4回 Unit 2: Describing People; Talking about Family 家族; a pain めんどくさい 第 5回 Unit 2: Using Simple Present (Be vs. Have); Appearance Adjectives 形容詞; a pleasure 喜び 第 6回 Unit 3: Describing Routines and Schedules 日常の習慣, Picky 好き嫌が多い 第 7回 Unit 3: Using Adverbs of Frequency: Always, Often, Sometimes, Hardly, Never 頻度 第 8回 Test (1) 試験 第 9回 Unit 4: Talking about Locations 場所の説明; ~hard 一生懸命～ 第 10回 Unit 4: Using Prepositions 前置詞; prefer ~の方が好き 第 11回 Unit 5: Giving Directions 道案内; rather ~の方がしたい 第 12回 Unit 5: Using To, At, From, On, In; Using Imperative Verbs 動詞と前置詞を合わせる 第 13回 Unit 6: Talking about Past Events 前の経験; Thanks for 感謝する 第 14回 Unit 6: Using Past Tense; Using Irregular Verb 不規則動詞; Thanks to ~のおかげ 第 15回 Review まとめ; Quiz クイズ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Test 試験 50%, Quiz クイズ 25%, Homework 宿題 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 387			担当者	野田 ゆり子
	英語Ⅱ（A）			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 388		担当者	ジェイムズ・マレー	
	英語Ⅱ（B）		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course to practice basic English skills. 基本的な英語スキルを練習するためのコースです。</p> <p>【概要】 This course covers basic English skills such as Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension. This everyday English is useful for work, shopping, travel, etc. リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング、理解力といった基本的な英語スキルを学びます。この日常的な英語は、仕事、買い物、旅行などに役立ちます。</p> <p>【到達目標】 To reinforce basic English and communicate confidently.基礎的な英語力を強化し、自信を持ってコミュニケーションをとる目的です。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	Students do group conversations, pair activities, and dialogue roleplay to memorize what they learn. 学生たちはグループでの会話、ペアでの活動、そして対話のロールプレイを行い、学んだ内容を記憶します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English Firsthand 1 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 Introduction 概要説明, Conversation Practice 簡単な会話 第 2回 Unit 7: Talking about Types of jobs, Job qualifications, Job skills 仕事; 第 3回 Unit 7: Using Enjoy, Like, Good at, Good with 上手・得意 第 4回 Unit 8: Talking about Entertainment; Making Invitations and Suggestions 招待とおすすめ 第 5回 Unit 8: Using different verb patterns 動詞のパターン; For the first time はじめて 第 6回 Discussion グループで相談する; For the first time in a long time 久しぶりに 第 7回 Unit 9: Talking about Future plans and Activities 将来・未来の話; For the first and last time 最初で最後 第 8回 Unit 9: Using Future tense; Making predictions 未来系; Sick / Tired of 飽きた 第 9回 Test 試験 第 10回 Unit 10: Clothing, Electronics, Personal items 身の回り品; For good 永遠に 第 11回 Unit 10: Using Comparatives and Intensifiers 比較; For now とりあえず 第 12回 Unit 11: Giving instructions 英語で説明する; So far 今のところ 第 13回 Unit 11: Using Sequence markers; Imperatives 命令形; Thankful for ありがたい 第 14回 Unit 12: Expressing opinions 自分の意見; Discussing music 音楽 第 15回 Review まとめ; Quiz クイズ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Test 試験 50%, Quiz クイズ 25%, Homework 宿題 25%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 389			担当者	英語担当教員全員
	異文化コミュニケーション (英語)			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	通年	2単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】 ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。 2024年度の実績</p> <p>日程：9月10日～9月25日 参加者：10名</p> <p>研修費用：約47万円※1ドルが145円～160円の場合（授業料，往復航空運賃，宿泊費，平日の朝・昼食費等）</p> <p>【到達目標】 英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)				
授業 スケジュール	<p>第 1回 事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明，パスポートの取得方法など，海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明，課題（研修中の日記，研修後のレポート作成）の指示など。</p> <p>海外研修： 9月を予定（約2週間）。現地の大学では，午前中に英語の授業，午後にハワイ文化に関する授業（フラダンス），KCC 学生との異文化交流。その他，学外授業としてプランテーションヴィレッジ，イオラニ宮殿，真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p> <p>第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 390		担当者	中国語担当教員全員	
	異文化コミュニケーション (中国語)		授業外対応	ガイダンスで指示	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	通年	2単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】 県立短大と交流協定を結んでいる南京農業大学国際教育学院で研修を行います。この科目は中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在中、基礎的な実用中国語を学びながら南京農業大学の学生とも交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>※2019年度中国研修の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日程：9月7日（土）～21日（土）[15日間] ・参加者：11名（日文3, 英文4, 経済1, 経情2, 二部1） ・費用：約19万円（ビザ, 往復航空券, 授業料, 宿泊費, 南京市内・市外の見学費用など） <p>【到達目標】 中国語運用能力を高めるだけでなく、中国の文化を学び、「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	中国滞在中、現地での授業、課外活動、学生間交流のような体験型研修をします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学の担当教員が指示 (2) なし				
授業 スケジュール	<p>第1回 事前指導：受講希望者に3～5回行います。[1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明, [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明, [3] 課題（レポート作成）の指示などです。</p> <p>第2回 海外研修：9月の夏期休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で午前中に中国語の授業を受けます。午後はさまざまな活動を通じて、中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語学部の学生と交流します。</p> <p>第3回 事後指導：帰国後に総括します。</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%）、および中国での学習成果（50%）をもとに成績を算出します。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 391			担当者	陳 躍
	中国語 I (A)			授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは講義中に告知)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楽しい中国語会話</p> <p>【概要】 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ① 関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳-日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 我是上海人 第 2回 我叫王平 第 3回 这里是南京路 第 4回 现在几点了? 第 5回 今天是星期几? 第 6回 你家有几口人? 第 7回 没关系 (映画) 第 8回 香港的夏天热吗? (映画) 第 9回 四川菜很好吃 (中間テスト) 第 10回 我经常散步 第 11回 牌价是多少? 第 12回 汉语难不难? 第 13回 我没吃蒜 第 14回 我想去超市 第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 392			担当者	楊 虹
	中国語 I (B)			授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語に親しむ</p> <p>【概要】この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】中国語の発音記号（ピンイン）の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回グループで会話練習をします。また、クラスメート全員に声をかけて会話をする練習も2, 3回あります。テーマを各自で設定し、中国の社会や文化について調べ学習をし、発表する活動を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習新・初級中国語13課』同学社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明，中国語で自分の名前を言う練習</p> <p>第2回 発音（1）：単母音と声調の導入，練習</p> <p>第3回 発音（2）：複母音の導入，練習</p> <p>第4回 発音（3）：子音の導入，練習</p> <p>第5回 発音（4）：子音の練習，発音のまとめ</p> <p>第6回 動詞是の使い方</p> <p>第7回 姓の言い方，尋ね方。フルネームの言い方，尋ね方</p> <p>第8回 これまでの復習</p> <p>第9回 動詞文の導入と練習</p> <p>第10回 動詞文の練習，疑問文の練習</p> <p>第11回 二つ以上の動詞からなる連動文</p> <p>第12回 希望や願望を表す助動詞「想」の導入，練習</p> <p>第13回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる</p> <p>第14回 全体の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度，小テスト：50%， 期末試験：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 393			担当者	陳 躍
	中国語Ⅱ (A)			授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは講義中に告知)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 楽しい中国語会話</p> <p>【概要】 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】 中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ① 関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳-日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 来我家玩吧</p> <p>第2回 我打算去旅行</p> <p>第3回 没看过, 听过</p> <p>第4回 我能参加</p> <p>第5回 我记一下</p> <p>第6回 我们边走边谈</p> <p>第7回 好像借给小李了 (中間テスト)</p> <p>第8回 我不会打日文 (映画)</p> <p>第9回 你知道号码吗? (映画)</p> <p>第10回 什么都可以</p> <p>第11回 被谁偷走了呢?</p> <p>第12回 让你久等了</p> <p>第13回 有没有单间?</p> <p>第14回 我说得不好</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 394			担当者	楊 虹
	中国語Ⅱ（B）			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語によるコミュニケーションに慣れる</p> <p>【概要】この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像を通して、中国の社会、文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>毎回グループで会話練習をします。また、クラスメート全員に声をかけて会話をする練習も2, 3回あります。テーマを各自で設定し、中国の社会や文化について調べ学習をし、発表する活動を行います。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 陳淑梅・胡興智『楽々学習新・初級中国語13課』同学社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習</p> <p>第2回 動詞「有」の導入，練習</p> <p>第3回 動詞「在」の導入，練習</p> <p>第4回 「有」と「在」の応用練習</p> <p>第5回 年月日，曜日の言い方の練習</p> <p>第6回 助動詞「得」と「要」言い方の導入，練習</p> <p>第7回 助動詞を使った文の応用練習</p> <p>第8回 復習（1）これまでの内容の復習</p> <p>第9回 形容詞述語文の導入，練習</p> <p>第10回 時刻の言い方の導入，練習</p> <p>第11回 形容詞述語文の応用練習</p> <p>第12回 お金の言い方の導入，練習</p> <p>第13回 量詞の導入，練習</p> <p>第14回 復習（2）：全体の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。				
成績評価の方法	授業への参加度，小テスト：50%，口頭試験：50%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 395		担当者	浜田 幸史	
	生涯スポーツ実習（A）		授業外対応	随時	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①</p> <p>第 2回 体づくり運動、球技ゴール型①</p> <p>第 3回 体づくり運動、球技ゴール型②</p> <p>第 4回 体づくり運動、球技ゴール型③</p> <p>第 5回 体づくり運動、球技ゴール型④</p> <p>第 6回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会①</p> <p>第 7回 体づくり運動、球技ネット型①</p> <p>第 8回 体づくり運動、球技ネット型②</p> <p>第 9回 体づくり運動、球技ネット型③</p> <p>第 10回 体づくり運動、球技ネット型④</p> <p>第 11回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会②</p> <p>第 12回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型①</p> <p>第 13回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型②</p> <p>第 14回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③</p> <p>第 15回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

授業科目	授業番号： 396		担当者	浜田 幸史	
	生涯スポーツ実習（B）		授業外対応	随時	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p> <p>【概要】導入教材として、体づくり運動（誰もが簡単に取り組むことができる運動、仲間と協力して楽しくできる運動、心や体が弾むような軽快な運動、体の柔らかさ・巧みな動き・力強い動き・動きを持続する能力を高めるための運動等）、主教材として、球技を取り扱う。各運動についての個やチームの課題解決を図る活動を通して、技能や体力を高めつつ、スポーツをする、見る、支える、知るという多様な関わり、楽しみがあることを理解する。</p> <p>【到達目標】各運動に関する知識の理解、楽しさを味わうための技能の習得、動きの改善点等の他者への伝達ができる。主体的な態度、健康・安全への態度を示すことができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回、ペア・グループワーク等を行う。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、授業資料を配付する。</p> <p>(2) 関朋昭『体育・スポーツ・健康概論』ナカニシヤ出版、中・高保健体育の副読本、その他、授業時に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション、体づくり運動、体力テスト①</p> <p>第 2回 体づくり運動、球技ゴール型①</p> <p>第 3回 体づくり運動、球技ゴール型②</p> <p>第 4回 体づくり運動、球技ゴール型③</p> <p>第 5回 体づくり運動、球技ゴール型④</p> <p>第 6回 レポート①発表・提出、体力テスト②、球技大会①</p> <p>第 7回 体づくり運動、球技ネット型①</p> <p>第 8回 体づくり運動、球技ネット型②</p> <p>第 9回 体づくり運動、球技ネット型③</p> <p>第 10回 体づくり運動、球技ネット型④</p> <p>第 11回 レポート②発表・提出、体力テスト③、球技大会②</p> <p>第 12回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型①</p> <p>第 13回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型②</p> <p>第 14回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型③</p> <p>第 15回 体づくり運動、ベースボール型・ターゲット型④、振り返り・まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	健康・安全に留意し、授業内容を復習すること。				
成績評価の方法	授業参画及び各運動に関する知識・技能の習得状況（80%）、レポート（20%）等から総合的に評価する。				
実務経験について	小・中学校、高等専門学校、大学における保健体育科目等の担当、小中高大生、社会人へのスポーツ・健康指導の経験あり。				

授業科目	授業番号： 397			担当者	永仮 ゆかり
	情報リテラシー I (A)			授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 株式会社富士通ラーニングメディア『よくわかる Microsoft Word 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) プリント</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 パソコンの基本操作：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作</p> <p>第 2回 文字の入力：キータッチ練習、Word の画面構成、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3回 文章の入力：キータッチ練習、文章の入力、IME パッドの利用</p> <p>第 4回 文書の作成 1：ページ設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5回 文書の作成 2：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）、印刷</p> <p>第 6回 課題文書作成 1：お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7回 表の作成：表の作成、選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8回 表の編集：セルの結合・分割、配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9回 課題文書作成 2：表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10回 文書の編集：均等割り付け、ルビ、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11回 表現力をアップする機能：ワードアート・画像の挿入、図形の作成、図解について</p> <p>第 12回 課題文書作成 3：案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13回 便利な機能：検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14回 レポートの作成：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座講師				

授業科目	授業番号： 398			担当者	永仮 ゆかり
	情報リテラシー I (B)			授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 株式会社富士通ラーニングメディア『よくわかる Microsoft Word 2021 基礎 Office 2021/Microsoft 365 対応』FOM 出版</p> <p>(2) プリント</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 パソコンの基本操作：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作</p> <p>第 2回 文字の入力：キータッチ練習、Word の画面構成、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3回 文章の入力：キータッチ練習、文章の入力、IME パッドの利用</p> <p>第 4回 文書の作成 1：ページ設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5回 文書の作成 2：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など）、印刷</p> <p>第 6回 課題文書作成 1：お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7回 表の作成：表の作成、選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8回 表の編集：セルの結合・分割、配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9回 課題文書作成 2：表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10回 文書の編集：均等割り付け、ルビ、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11回 表現力をアップする機能：ワードアート・画像の挿入、図形の作成、図解について</p> <p>第 12回 課題文書作成 3：案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13回 便利な機能：検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14回 レポートの作成：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座講師				

授業科目	授業番号： 399			担当者	上野 祐子
	情報リテラシーⅡ (A)			授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学校生活に必要な情報活用技術を学ぶ</p> <p>【概要】 学校生活で必要不可欠なタイピングスキル、メールの送受信、ファイル操作、Web 検索、PowerPoint 作成技術を習得する。講義内 10 分間はタイピング練習を実施する。メールの送受信やファイル操作が円滑に出来るよう、課題の提出はメールで行う。Web による情報検索では、著作権や情報セキュリティに関する知識も習得する。2 回目と 3 回目の課題は、自分でテーマを考えて作成し、授業内で公開する。数理・データサイエンスに関するビデオ視聴も行う。</p> <p>【到達目標】 他の授業の課題やレポートを作成し、メールで提出できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布する。 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、電子メール (Web メール、スマホと連携) の設定 確認テスト 1 第 2 回 電子メール (Web メール) の練習、USB メモリの使い方、ファイル操作の練習 確認テスト 2 第 3 回 ファイルの整理 (ファイルの概念、フォルダの概念) 及びファイルの検索 確認テスト 3 第 4 回 ファイルの操作の練習 (圧縮と解凍)、電子メール (Thunderbird) の設定 確認テスト 4 第 5 回 ファイルの操作の練習、電子メール (Thunderbird) の練習 確認テスト 5 第 6 回 USB カメラの操作、動画編集体験 確認テスト 6 第 7 回 Web による情報検索 確認テスト 7 第 8 回 Web による情報検索 (2) 確認テスト 8 第 9 回 Web による情報検索 第 1 回課題 第 10 回 Web による情報検索 (画像検索)、画像の編集 確認テスト 9 第 11 回 Web による情報検索 (画像検索) 第 2 回課題 第 12 回 PowerPoint (概要、起動と終了、画面構成、作成) 確認テスト 10 第 13 回 PowerPoint (作成、スライドショーの実行、原稿作り) 第 3 回課題 第 14 回 PowerPoint (原稿作り、発表、鑑賞) 第 15 回 PowerPoint (発表、鑑賞)				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。				
成績評価の方法	10 回の確認テスト (20%) と 3 回の課題 (40%)、期末レポート (40%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座 (パソコン講座) 講師。				

授業科目	授業番号： 400			担当者	上野 祐子
	情報リテラシーⅡ (B)			授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	1単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学校生活に必要な情報活用技術を学ぶ</p> <p>【概要】 学校生活で必要不可欠なタイピングスキル、メールの送受信、ファイル操作、Web 検索、PowerPoint 作成技術を習得する。講義内 10 分間はタイピング練習を実施する。メールの送受信やファイル操作が円滑に出来るよう、課題の提出はメールで行う。Web による情報検索では、著作権や情報セキュリティに関する知識も習得する。2 回目と 3 回目の課題は、自分でテーマを考えて作成し、授業内で公開する。数理・データサイエンスに関するビデオ視聴も行う。</p> <p>【到達目標】 他の授業の課題やレポートを作成し、メールで提出できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布する。 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 オリエンテーション、電子メール (Web メール、スマホと連携) の設定 確認テスト 1 第 2 回 電子メール (Web メール) の練習、USB メモリの使い方、ファイル操作の練習 確認テスト 2 第 3 回 ファイルの整理 (ファイルの概念、フォルダの概念) 及びファイルの検索 確認テスト 3 第 4 回 ファイルの操作の練習 (圧縮と解凍)、電子メール (Thunderbird) の設定 確認テスト 4 第 5 回 ファイルの操作の練習、電子メール (Thunderbird) の練習 確認テスト 5 第 6 回 USB カメラの操作、動画編集体験 確認テスト 6 第 7 回 Web による情報検索 確認テスト 7 第 8 回 Web による情報検索 (2) 確認テスト 8 第 9 回 Web による情報検索 第 1 回課題 第 10 回 Web による情報検索 (画像検索)、画像の編集 確認テスト 9 第 11 回 Web による情報検索 (画像検索) 第 2 回課題 第 12 回 PowerPoint (概要、起動と終了、画面構成、作成) 確認テスト 10 第 13 回 PowerPoint (作成、スライドショーの実行、原稿作り) 第 3 回課題 第 14 回 PowerPoint (原稿作り、発表、鑑賞) 第 15 回 PowerPoint (発表、鑑賞)				
授業外学習 (予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。				
成績評価の方法	10 回の確認テスト (20%) と 3 回の課題 (40%)、期末レポート (40%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座 (パソコン講座) 講師。				

授業科目	授業番号： 401			担当者	矢野 俊樹
	情報社会論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学まで包括した IT 知識を学び、IT パスポート試験の合格を目指す</p> <p>【概要】国家資格である IT パスポート試験は IT リテラシーを証明する入門的な位置付けの試験である。</p> <p>ストラテジ・マネジメント・テクノロジーと 3 つの分野で構成されており、情報分野のみならず経営学やオペレーションまで包括的に学修する必要がある。</p> <p>本授業では 3 つの分野を満遍なく網羅し、実際の過去問題を題材として演習を繰り返し、実務家教員の経験に基づいた解説を実施する。</p> <p>【到達目標】IT パスポート試験の合格レベル(総合 600 点/1000 点)を目指す。</p> <p>少なくともストラテジ・マネジメント・テクノロジーの 3 分野において 300 点以上の得点を目指す。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>自ら学修計画を作成し、進捗と理解度の管理を行う。</p> <p>また、授業ごとに分かりにくかった点を挙げてもらうことでリレーションシップを図る。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『かんたん合格 IT パスポート過去問題集令和 8 年度春期 間久保 恭子』2024 年 11 月 21 日初版 株式会社インプレス</p> <p>(2) 適宜配布</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：試験の概要の説明、試験日の案内</p> <p>第 2 回 ストラテジ系 31-60 問(経営戦略,システム戦略)</p> <p>第 3 回 ストラテジ系 61-100 問(システム戦略)</p> <p>第 4 回 マネジメント系 1 問-30 問(開発技術,プロジェクトマネジメント,サービスマネジメント)</p> <p>第 5 回 マネジメント系 31-67 問(サービスマネジメント)</p> <p>第 6 回 テクノロジー系 1-30 問(基礎理論,コンピュータシステム)</p> <p>第 7 回 テクノロジー系 31-60 問(コンピュータシステム,技術要素)</p> <p>第 8 回 テクノロジー系 61-90 問(技術要素)</p> <p>第 9 回 テクノロジー系 91-138 問(技術要素)</p> <p>第 10 回 新シラバス対応：新たに追加された範囲の学修①</p> <p>第 11 回 新シラバス対応：新たに追加された範囲の学修②</p> <p>第 12 回 試験概要のおさらいと対策</p> <p>第 13 回 模擬試験の実施①</p> <p>第 14 回 模擬試験の実施②</p> <p>第 15 回 模擬試験のフィードバックとまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	課題の提出率及び内容 60%, 授業での態度と貢献度 20%, 授業中の小テストの結果 20%				
実務経験について	あり				

情報科学概論履修済みまたは同等の知識を有すると認められる者

授業科目	授業番号： 402			担当者	山口 祐司
	現代社会論			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会を特徴づける「分断」の問題を、資本主義の発展史という視座から考えていきます。</p> <p>【概要】この授業は、現代社会の特徴を「分断」というキーワードでとらえます。その背景を理解するための概念が、主として1970年代以降の資本主義世界で進んだ、「グローバリゼーション」と「新自由主義」です。講義の前半でこれらの概念を詳細に検討し、後半において分断の問題事例をテーマに分けて検討します。これらを踏まえて最後に、こうした問題を打開する取り組みについてみていきます。</p> <p>【到達目標】現代社会が直面するさまざまな問題について理解を深めること。問題の背景について考え、これからの社会を作る一員として解決策を見出す力をつけること。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>毎回授業の最後に、その日の授業で学んだことや質問を200字以上でコメントカードにまとめて提出してもらいます。出された質問の中から授業理解に関わって重要なものについて、翌週解説します。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 講義時に提示</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス 第 2回 グローバリゼーション (1) グローバリゼーションとは何か 第 3回 グローバリゼーション (2) グローバリゼーションと企業 第 4回 グローバリゼーション (3) グローバリゼーションと国・地域 第 5回 新自由主義 (1) 自由とは何か 第 6回 新自由主義 (2) 自由主義からケインズ主義へ (1930年代まで) 第 7回 新自由主義 (3) 新自由主義の台頭 第 8回 新自由主義 (4) 新自由主義の帰結 第 9回 中間まとめ 第10回 現代社会の諸問題 (1) 雇用・労働問題 第11回 現代社会の諸問題 (2) 富裕層の実態と格差問題 第12回 現代社会の諸問題 (3) 地域格差と人口問題 第13回 現代社会の諸問題 (4) 外国人労働者と差別の問題 第14回 行き詰まりを打開するために 第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>事前に予習用の参考文献を提示することがあります。授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。</p>				
成績評価の方法	<p>レポート (60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ (40%)</p>				
実務経験について	<p>なし。</p>				

授業科目	授業番号： 403			担当者	山口 祐司
	経済学			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。</p> <p>【概要】 経済とは、生産・流通・分配・消費・廃棄の社会的つながりのことです。現代社会においてはこのつながりは主として市場の仕組みによって媒介され、市場の仕組みがうまく機能しない場合に政府が補います。この授業では、個々の経済主体の目線から見た市場の機能の問題を扱うミクロ経済学と、「国」のような大きな社会的まとまりで経済の動きを分析するマクロ経済学という、経済学の基礎となる2つの考え方を学んでいきます。</p> <p>【到達目標】 経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>毎回授業の最後に、その日の授業で学んだことや質問を200字以上でコメントカードにまとめて提出してもらいます。出された質問の中から授業理解に関わって重要なものについて、翌週解説します。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) マンキュー, N・グレゴリー (2019) 『マンキュー入門経済学 [第3版]』 東洋経済新報社 伊藤元重 (2015) 『入門 経済学 [第4版]』 日本評論社</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 経済学の考え方</p> <p>第3回 ミクロ経済学の基礎 (1) 需要と供給</p> <p>第4回 ミクロ経済学の基礎 (2) 価格決定メカニズムと市場の機能</p> <p>第5回 ミクロ経済学の基礎 (3) 競争的市場の効率性</p> <p>第6回 ミクロ経済学の基礎 (4) 不完全市場</p> <p>第7回 ミクロ経済学の基礎 (5) ミクロ経済学のまとめ</p> <p>第8回 マクロ経済学の基礎 (1) 経済規模, 経済活動の成果の測定</p> <p>第9回 マクロ経済学の基礎 (2) マクロ経済と物価水準</p> <p>第10回 マクロ経済学の基礎 (3) 経済成長</p> <p>第11回 マクロ経済学の基礎 (4) 貯蓄, 投資と金融システムの役割</p> <p>第12回 マクロ経済学の基礎 (5) 短期的経済変動とマクロ経済政策</p> <p>第13回 マクロ経済学の基礎 (6) 外国貿易</p> <p>第14回 マクロ経済学の基礎 (7) マクロ経済学のまとめ</p> <p>第15回 全体のまとめ, テスト対策</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>毎回の授業範囲の予習(テキスト)・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。</p>				
成績評価の方法	<p>筆記試験 (60%), 毎回の授業で実施する授業まとめ (40%)</p>				
実務経験について	<p>なし。</p>				

授業科目	授業番号： 404			担当者	中嶋 晋平
	社会学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学の基本的な考え方を理解するとともに、社会の視点から現代社会を理解する。</p> <p>【概要】社会学は、私たちにとって当たり前の存在である「社会」を冠した学問である。複雑さを増す現代社会の解決に社会学が貢献できる余地は多い。ところが日本では、大学・短大などの高等教育機関以外で社会学を学ぶ機会がないため、どのような学問であるかを理解している者は少ない。本講義では社会学の基本的な考え方やものの見方を学ぶとともに、社会学の視点から現代社会が抱える課題をとらえ直す能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】社会学とはどのような学問か、その基本的な考え方を理解する。社会学の視点を通して現代社会の課題を理解する力を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 間淵領吾・酒井千絵・古川誠編 (2022)『基礎社会学 新訂第5版』世界思想社 配布資料はwebで公開</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 社会学の歴史①</p> <p>第 3回 社会学の歴史②</p> <p>第 4回 社会学の発想</p> <p>第 5回 社会調査とデータ</p> <p>第 6回 社会学の基本概念①</p> <p>第 7回 社会学の基本概念②</p> <p>第 8回 都市という空間①</p> <p>第 9回 都市という空間②</p> <p>第 10回 社会と環境①</p> <p>第 11回 社会と環境②</p> <p>第 12回 社会の病理</p> <p>第 13回 学歴と社会</p> <p>第 14回 差別と社会①</p> <p>第 15回 差別と社会②</p>				
授業外学習 (予習・復習)	振り返り小テストに備えて、教科書・配布資料を読み返し復習すること				
成績評価の方法	毎回の振り返り小テスト (100%)				
実務経験について	なし				

資料配布、振り返り小テストは「Google classroom」で行います。大学のアカウントでのログインが必要になります。

授業科目	授業番号： 405			担当者	田口 康明
	文化と社会			授業外対応	taguchi@k-kentan.ac.jp メール
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化と社会の関連について、教育的な側面から検討する。手がかりとして、ひとりの子どもがどのように社会的文化的にその社会の成員になっていくのかについて検討する。</p> <p>【概要】本科目は、専門基礎科目に位置づけられているが、一定の文化を保持する社会と人間の関わりを子どもの成長という側面からとらえるものである。今日、「幼児」の世界は、「大人」の側からの強大な圧力にさらされ、「幼児」を「幼児」たらしめている「幼児期」が軽視されている。こうした今日の「幼児」と「幼児期」をどのようにとらえるのかについて、テキストをとおして検討する。</p> <p>【到達目標】 1) テキストを熟読する。 2) 幼児期の特徴について深く理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岡本夏木『幼児期』岩波新書、2005年</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第 2回 「しつけ」 1 しつけとは/自己実現</p> <p>第 3回 「しつけ」 2 「問題解決」としつけ/大人の非合理性</p> <p>第 4回 「あそび」 1 発達と身体/象徴あそび</p> <p>第 5回 「あそび」 2 ルール/思考と文化</p> <p>第 6回 「表現」 1 生活と表現</p> <p>第 7回 「表現」 2 独自性と共同性</p> <p>第 8回 「ことば」 1 ことばの世界と身体</p> <p>第 9回 「ことば」 2 ことばのない世界</p> <p>第 10回 「ことば」 3 身体と心的世界の結合</p> <p>第 11回 「ことば」 4 ことばの世界の前</p> <p>第 12回 「ことば」 5 ことばの成り立ちと私の世界</p> <p>第 13回 「ことば」 6 関係性とことば</p> <p>第 14回 「幼児期」 1 存在と時間</p> <p>第 15回 「幼児期」 2 自分にとっての幼児期 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業内にて指示 (テキストの指示した範囲を必ず読むこと)				
成績評価の方法	授業中の発表 (各自分担する) 70%, ファイナルレポート 30%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 406			担当者	未定
	行政法			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 407			担当者	未定
	金融論			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 408			担当者	近間 由幸
	社会政策			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本的雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について</p> <p>【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本的雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置する非正規労働者、女性、若者、外国人などの格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。前半は労働政策を中心に扱い、後半は社会保障政策を中心に扱っていく。</p> <p>【到達目標】国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解し、望ましい社会政策の方向性について考える思考力を身につけることを目指す。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ミニレポート用紙に記入された質問については、適宜次回授業の冒頭に解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編『よくわかる社会政策〈第3版〉雇用と社会保障』ミネルヴァ書房</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 イントロダクションー日本社会の「しくみ」について</p> <p>第 2回 社会政策とはなにか</p> <p>第 3回 賃金と社会政策</p> <p>第 4回 企業と労働組合の関係</p> <p>第 5回 過労死と長時間労働</p> <p>第 6回 非正規雇用とは何か</p> <p>第 7回 日本社会における入社のしくみと若者支援政策</p> <p>第 8回 日本的雇用システムと女性の働き方</p> <p>第 9回 子育てと雇用政策</p> <p>第 10回 高齢者の福祉と雇用</p> <p>第 11回 社会保険のなかの医療保険制度</p> <p>第 12回 社会保険と生活保護の溝</p> <p>第 13回 労働市場政策の国際比較ースウェーデンモデルを事例として</p> <p>第 14回 移民問題と外国人労働者</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)，筆記試験 (70%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 409			担当者	渡邊 碩
	社会思想			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近代ヨーロッパを中心とした社会思想の歴史を学ぶ。</p> <p>【概要】社会思想史とは、経済学、政治学、社会学などの社会科学が前提としている社会観や人間観について、その特徴や歴史的成り立ちを様々な角度から検証する学問です。本科目では特に、社会科学が先駆的に成立した近代ヨーロッパにおける社会思想を対象とします。毎回の講義の進め方としては、各思想家の時代背景と問題関心を紹介したのち、古典的著作を読みながら、思想家がそれぞれの問題にどのように回答を提示したか、というテキスト解釈を行います。</p> <p>【到達目標】歴史的な文脈や論点を踏まえながら、社会思想史における古典的文献を読みこなすことができる。また、様々な概念装置の成立過程に注目しながら、社会科学を修得するという手法を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	複数回の授業において、疑問点や感想をコメントペーパーに書いてもらい、それに応答する時間を設ける予定です。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教科書は使用せず、プリントを配布します。</p> <p>(2) 授業中に指示します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 履修ガイダンス：社会思想史とは何か？</p> <p>第 2 回 ホッブズの歴史意識：『リヴァイアサン』</p> <p>第 3 回 ルソーの歴史意識：『社会契約論』</p> <p>第 4 回 カントの歴史意識：『啓蒙とは何か』</p> <p>第 5 回 ヘルダーの歴史意識：『人類歴史哲学考』</p> <p>第 6 回 ヘーゲルの歴史意識：『歴史哲学講義』</p> <p>第 7 回 マルクスの歴史意識：『共産党宣言』</p> <p>第 8 回 ニーチェの歴史意識：『道徳の系譜』</p> <p>第 9 回 フロイトの歴史意識：『モーセと一神教』</p> <p>第 10 回 ヴェーバーの歴史意識 1：『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』</p> <p>第 11 回 ヴェーバーの歴史意識 2：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』</p> <p>第 12 回 ヴェーバーの歴史意識 3：『支配について』</p> <p>第 13 回 ヴェーバーの歴史意識 4：『職業としての学問』</p> <p>第 14 回 社会思想と現代</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	予復習と並行して、講義で扱う古典的テキストについては、いくつかを自主的に読了してほしいと考えます。				
成績評価の方法	期末試験 70%。授業中の小レポート 30%。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 410			担当者	藤野 博行
	民法			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】民法に関する基本的な知識を学び、身の回りの課題についての解決策を考えます。</p> <p>【概要】サービスを受ける、プレゼントを贈るなど、みなさんが日々何気なく行なっている活動を円滑に行うための基本ルールの多くは民法に定められています。本科目は、民法の基本的な知識について講義形式で学ぶとともに、グループで身近な法的トラブルに関する文献を読解し、解決策について考えます。</p> <p>【到達目標】①民法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②課題について、グループで意見を出し合いながら論理的に考え、自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>ほぼ毎回グループワークを実施。ランダムに 2~4 人組を作り、課題について考えてもらいます。グループワークで考えていただいたアイデア等については、基本的に web 上のツール (microsoft forms や slido) に入力してもらいますが、たまに指名して発表を求めることもあります。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (資料を配付します)</p> <p>(2) 道垣内弘人『リーガルベイス民法入門』日本経済新聞出版社 (2019 年) 5280 円 ISBN-13:978-4296114641</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ①ガイダンス, ②民法の意義と体系, ③民法の基本原則</p> <p>第 2 回 権利能力と行為能力</p> <p>第 3 回 意思表示 (心裡留保, 通謀虚偽表示)</p> <p>第 4 回 意思表示 (錯誤, 詐欺, 脅迫)</p> <p>第 5 回 代理 (代理の基礎, 無権代理, 表見代理)</p> <p>第 6 回 ①時効, ②前半のまとめ</p> <p>第 7 回 ①中間テスト, ②物権の意義と内容</p> <p>第 8 回 ①中間テストの講評, 公信の原則と公示の原則 (悪意の第三者と背信的悪意者)</p> <p>第 9 回 ①公信の原則と公示の原則 (即時取得) ②所有権の意義・内容</p> <p>第 10 回 ①用益物権の意義, ②担保物権の意義, ③留置権・先取特権・質権の概要</p> <p>第 11 回 ①抵当権, 根抵当権の概要, ②債権の意義と概要</p> <p>第 12 回 ①契約の成立, ②売買契約の基本事項</p> <p>第 13 回 ①売買契約 (消費者法)</p> <p>第 14 回 ①賃貸借契約, ②事務管理, ③不当利得</p> <p>第 15 回 ①不法行為, ②後半の復まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25 点) 中間試験 (25 点), 期末試験 (50 点)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 411			担当者	松田 忠大
	商法			授業外対応	講義終了時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1,2,3年	前期	2単位	選択	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】商法の特質と会社の組織および活動に関する法を学ぶ</p> <p>【概要】私たちは、多くの場合、企業から生活に必要な物資やサービスの提供を受けるとともに、企業に対して労働力を提供し、その対価としての賃金を得ている。現代では社会経済活動において、企業、とりわけ営利企業が重要な役割を果たしていることから、その一形態である会社に関する法制度を学ぶことは有意義である。そこで、本講義では、商法の領域における会社法に焦点をあて、特に株式会社の組織および運営に関する法制度を学習する。</p> <p>【到達目標】商法の特質、会社の組織および運営に関する基礎的事項を理解するとともに、会社をめぐる法律問題を通して法的思考力を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 神田秀樹『会社法』(第26版)(弘文堂)</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 商法の意義および特質</p> <p>第2回 会社の意義と種類</p> <p>第3回 株式会社の設立</p> <p>第4回 株式①(株式の意義、株式の種類等)</p> <p>第5回 株式②(株主の権利、株主平等原則など)</p> <p>第6回 株式③(株式の自由譲渡、譲渡制限)</p> <p>第7回 株式④(株式の併合、分割、無償割当等)</p> <p>第8回 新株の発行</p> <p>第9回 新株予約権</p> <p>第10回 株式会社の機関①(総論・株主総会)</p> <p>第11回 株式会社の機関②(株主総会)</p> <p>第12回 株式会社の機関③(役員等の選解任、取締役・取締役会)</p> <p>第13回 株式会社の機関④(代表取締役、監査役、監査役会、会計監査人)</p> <p>第14回 株式会社の機関⑤(役員等の義務・責任)</p> <p>第15回 会社の機関⑤(株主代表訴訟・差止請求権)</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業前に各回の講義内容について予習をすること、また、授業後は講義内容について復習すること				
成績評価の方法	期末試験 80%、レポート 10%、毎回の授業終了後に提出する授業に対するコメント 10%を総合して 100 点満点で評価する。総合評価 60 点以上を合格とする。				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 412		担当者	宗田 健一・岡村 雄輝・川畑 知裕・蜷川 賢治・山之内 達明	
	税法		授業外対応	講義前後に適宜対応，メール等で対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2,3年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】税の仕組みや各税法に関する基礎を学ぶ</p> <p>【概要】税や税制の基礎知識と税法の基本的な考え方について学びます。そのうえで，所得税法，法人税法，相続税法，消費税法，酒税法，地方税制，国際課税，租税手続，租税処罰法，租税救済法などについて学びを深めていきます。なお，税理士による講義，実習も行います。</p> <p>【到達目標】税法の基本的な考え方を知る。様々な税に関する法律とその考え方について知る。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	4～6回程度，電卓，資料を用いて，税額計算を行ったり，税制に関するディスカッション・グループワークを行ってもらう予定です。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 講義中に指示します。				
授業 スケジュール	第 1 回 ガイダンス 税の意義 第 2 回 租税法律主義，租税回避 第 3 回 応能負担原則，課税最低限 第 4 回 所得税法（所得概念，納税義務の範囲，課税単位） 第 5 回 所得税法（所得分類，給与所得課税，収入の帰属時期） 第 6 回 所得税法（所得控除と税額控除，所得税の計算） 第 7 回 法人税法（法人税の根拠，納税義務者） 第 8 回 法人税法（計算構造），租税手続法（確定手続） 第 9 回 租税処罰法，租税救済法（不服申立），税務訴訟 第 10 回 確定申告制度とその実務（青色申告，白色申告，確定申告実務），所得税（所得控除と税額控除，所得税の計算） 第 11 回 消費税法（消費税の基礎，多段階付加価値税・仕入税額控除，非課税・ゼロ課税・逆進性対策） 第 12 回 電子帳簿保存法とインボイス制度，税務調査，地方税制，国際課税 第 13 回 判例の読み方と活用，相続税法（課税の根拠，日本の課税方式と問題点） 第 14 回 税理士業務と IT 技術（会計ソフト，AI），税理士事務所・法人における会計・税務実務 第 15 回 まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施				
授業外学習 （予習・復習）	適宜指示				
成績評価の方法	中間レポート 50%，期末レポート（50%）				
実務経験について	有り（税理士 3 名）				

授業科目	授業番号： 413			担当者	岡村 俊彦
	産業心理学			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。身近で具体的な事象として「思考力」や「判断力」を養う。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる</p>				
学生の主体的・対話的な学び	簡単な心理実験や心理テストを数回行い、主体的な学びを深める。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布，Web でも公開 (2) なし				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明</p> <p>第 2 回 人間とシステムの間わり合い，精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第 3 回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第 4 回 ヒューマンインターフェイス 1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第 5 回 ヒューマンインターフェイス 2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第 6 回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第 7 回 仕事の成功と動機付け：成功，失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第 8 回 人間関係，労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係</p> <p>第 9 回 ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例</p> <p>第 10 回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム</p> <p>第 11 回 購買心理：消費者の購買心理</p> <p>第 12 回 販売，印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第 13 回 ヒューマンのエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第 14 回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	通常のレポート 2 回分が 80%，出席・授業中のショートレポートが 20%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 414			担当者	宗田 健一
	会計学総論			授業外対応	講義前後に適宜対応，メール等に対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 会計学の全体像を知る。</p> <p>【概要】 この講義は、これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で、会計学の全体的な内容を理解することができます。</p> <p>【到達目標】 会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回の講義で、講義に関連する質問、講義を受けてのリアクションシートを講義専用オンラインサイトから記入していただきます。なお、学生の皆さんのコメント、意見は、次週以降にフィードバック・解説します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小野正芳編著『スタートアップ会計学』(第3版) 同文館出版。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』(第26版以降のもの) 中央経済社(予定)、その他は講義中に指示します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 ガイダンス，会計って何？ 簿記・会計はどこからやってきたの？ 簿記・会計の歴史概要</p> <p>第2回 会計にどんな資格があるのか？ 会計の社会的役割</p> <p>第3回 会計はどう利用するの？ 財務分析の概要</p> <p>第4回 企業の成績はどうやってみるの？ 財務諸表の概要</p> <p>第5回 会計は経営にどう役立つの？ 管理会計の概要</p> <p>第6回 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの？ 原価計算の概要</p> <p>第7回 会計情報はどうやって作られるの？ 簿記の概要</p> <p>第8回 会計制度はどうなっているの？ 財務会計の概要</p> <p>第9回 財務諸表は信頼できるの？ 財務諸表監査の概要</p> <p>第10回 会社の税金はいくらになるの？ 税務会計の概要</p> <p>第11回 グローバル経済における会計ルールってなに？ 国際会計の概要</p> <p>第12回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの？ 環境会計・CSR会計の概要</p> <p>第13回 ボランティア活動にも儲けが必要なの？ 非営利会計の概要</p> <p>第14回 自治体の会計はどうなっているの？ 公会計の概要</p> <p>第15回 まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施</p>				
授業外学習 (予習・復習)	復習が大切です。				
成績評価の方法	期末レポート 100%				
実務経験について	なし				

講義中、企業経営者を招いてお話しいただく機会を設ける予定です。

授業科目	授業番号： 415			担当者	岡村 雄輝
	簿記論 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキストを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。</p> <p>【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	受講者同士で相互に教え合う問題演習の時間を設けています。また、毎回の講義においてGoogle フォームで質問・意見・要望を募り、次回の講義で回答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕亘, 片山覚, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』(令和8年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 田口聡志, 廣瀬喜貴, 澤井康毅, 木村太一, 澤田雄介 (共)『簿記論15講』, 新世社。</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 複式簿記とはなにか? : 意義と目的, 簿記の基礎, 貸借対照表</p> <p>第2回 複式簿記とはなにか? 貸借対照表, 損益計算書, 両者の関係</p> <p>第3回 仕訳と転記: 勘定, 取引の意義, 取引8要素と結合関係</p> <p>第4回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第5回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第6回 決算(1): 決算の意義と手続, 試算表の作成</p> <p>第7回 決算(2): 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表の作成</p> <p>第8回 決算(3): 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表の作成</p> <p>第9回 現金と預金: 現金勘定と現金出納帳, 現金過不足, 当座預金と当座借越</p> <p>第10回 現金と預金: 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金</p> <p>第11回 繰越商品・仕入・売上: 3分法, 諸掛と返品</p> <p>第12回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳, 商品有高帳</p> <p>第13回 公認会計士が語る簿記会計を学ぶ意義: 複式簿記の実践についての講話</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説</p> <p>第15回 総合問題: 問題演習と解説</p>				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。				
成績評価の方法	期末テスト100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 416			担当者	竹中 啓之
	経営学総論			授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、初めて経営学を学ぶ際に必要と思われる知識や考え方について説明する。経営学が取り扱う様々なテーマを幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、経営学が持つ特徴的な考え方も説明し、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業後に感想・質問などを記入する用紙を提出してもらい、その内容を次回の授業で紹介したり、私からのコメントを加えたりします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する				
授業スケジュール	<p>第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2 回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第 3 回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第 4 回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第 5 回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第 6 回 企業における4つの経営資源（ヒト）：働く私たちと企業と関係を考える。</p> <p>第 7 回 企業における4つの経営資源（カネ）：企業の資金調達の方法などについて説明する。</p> <p>第 8 回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト（予定）</p> <p>第 9 回 企業における4つの経営資源（モノ）：主にマーケティングについて説明する。</p> <p>第 10 回 企業における4つの経営資源（情報）：企業における情報の種類やその活用方法について説明する。</p> <p>第 11 回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第 12 回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第 13 回 企業統治について：株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。</p> <p>第 14 回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習（予習・復習）	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 417			担当者	矢野 俊樹
	情報科学概論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】情報の基礎を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】コンピュータやネットワーク、データベースなど情報科学の基礎を学ぶ。 現在社会において情報情報リテラシーは非常に重要な身につけるべき能力である。本授業ではその情報科学の基礎を実務家教員が実務経験に基づき体系的に分かりやすく学ぶ。</p> <p>【到達目標】情報リテラシーの基礎を身につけ、①PC のスペック表を見て性能を把握することができる。②セキュリティに関する知識を修得し、安全な ICT 運用の助言ができることを目指す。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	授業ごとに振り返りレポートを作成することで、自ら理解度の管理を行う。 また、章ごとにその内容に関する疑問等を挙げてもらうことで、「自分ごと」としての知識を身につける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 『身につく！合格！IT パスポート 有馬一也,谷藤 修栄』 2019年初版発行 (株) インフォテックサーブ (2) 適宜配布				
授業 スケジュール	第 1回 ハードウェア：コンピュータの種類 第 2回 ハードウェア：コンピュータの種類、五大装置 第 3回 ハードウェア：基数変換・論理演算 第 4回 ハードウェア：稼働率 第 5回 ソフトウェアと情報メディア：OS、ファイルシステム、バックアップ 第 6回 ソフトウェアと情報メディア：ソフトウェア、マルチメディア 第 7回 データベース：RDB と正規化 第 8回 ネットワーク：ネットワークの基本とインターネット 第 9回 情報セキュリティ：情報セキュリティの脅威① 第 10回 情報セキュリティ：情報セキュリティの脅威② 第 11回 情報セキュリティ：暗号化、デジタル署名 第 12回 アルゴリズムとプログラミング：アルゴリズム、プログラム言語 第 13回 システム開発技術：システム開発プロセス 第 14回 システム戦略：情報システム戦略、システム企画 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	課題の提出率及び内容 60%、授業での態度と貢献度 20% 、授業中の小テストの結果 20%				
実務経験について	あり				

授業科目	授業番号： 418		担当者	永仮 ゆかり	
	文書作成実習		授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>*後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする。</p> <p>【到達目標】実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得）</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 日本商工会議所 IT 活用能力検定研究会編著『よくわかるマスター 改訂 2 版 日商 PC 検定試験 文書作成・データ活用・プレゼン資料作成 3 級 知識科目 公式問題集』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）</p> <p>第 2 回 検定対策（3 級）：社外文書の作成（案内状）、知識問題（共通分野）</p> <p>第 3 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 1、知識問題（共通分野）</p> <p>第 4 回 検定対策（3 級）：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）</p> <p>第 5 回 検定対策（3 級）：通知状の作成、図形の補足、知識問題（共通分野）</p> <p>第 6 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）</p> <p>第 7 回 検定対策（3 級）：課題文書作成 2、知識問題（共通分野）</p> <p>第 8 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定サンプル問題演習、知識問題（共通分野）</p> <p>第 9 回 検定対策（3 級）：文書作成 3 級検定模擬問題演習</p> <p>第 10 回 Excel データの利用：Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み</p> <p>第 11 回 いろいろな応用機能：スタイル、文書の挿入、SmartArt など</p> <p>第 12 回 稟議書の作成：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）</p> <p>第 13 回 実践問題：課題文書作成 3（Excel データ・テキストファイルの利用など）</p> <p>第 14 回 議事録の作成：議事録の作成（テンプレートの利用、セクション区切りなど）</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	知識問題の予習・復習、実技問題の復習など適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）と 3 回の課題（10%×3）の総合評価				
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座講師				

授業科目	授業番号： 419			担当者	倉重 賢治
	統計学			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】 現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】・基本的なデータ処理を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相関関係について理解する ・検定について理解する 				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 特になし				
授業 スケジュール	第 1回 序論：統計学とは 第 2回 データの基本処理：平均値，度数分布 第 3回 データの基本処理：標準正規分布 第 4回 データの基本処理：正規分布 第 5回 データの基本処理：正規分布と偏差値 第 6回 データの基本処理：確率分布 第 7回 統計解析：相関係数 第 8回 統計解析：回帰直線 第 9回 統計解析：カイ2乗検定 第 10回 統計解析：平均値の推定 第 11回 統計解析：平均値の検定 第 12回 統計解析：比率の推定と検定 第 13回 統計解析：ベイズ統計学 第 14回 統計解析：検定について 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題 (20%) + 期末試験 (80%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 420			担当者	岡村 俊彦
	応用文書処理			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2,3年	前期	1単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。</p> <p>2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する</p> <p>3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</p> <p>【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	PCの実習なので、基本的に主体的な学びになる。いずれの課題とも統一的なものではなく、学生がそれぞれ課題設定をおこない、工夫していくことが求められる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Web で公開 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2回 自己紹介文書作成 1：ワープロソフトを使ったベース文書の作成 第 3回 自己紹介文書作成 2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4回 自己紹介文書作成 3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第 5回 自己紹介文書作成 4：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6回 ホームページ作成 1：HTML の復習 第 7回 ホームページ作成 2：課題設定とネット上のルール、マナー 第 8回 ホームページ作成 3：資料収集とページ作成 第 9回 ホームページ作成 4：ウェブサイト公開 第 10回 提案書作成 1：インターネットによる費用情報検索 第 11回 提案書作成 2：表計算ソフトによる自動計算書 第 12回 提案書作成 3：資料用 PDF ファイルの操作 第 13回 提案書作成 4：プレゼン資料作成 第 14回 提案書作成 5：ビジネスメールのマナーとプレゼン 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート (3つの課題を総合的に評価)				
実務経験について	なし				

ワード、エクセルがある程度できる中級者向けの授業です。初級者の受講はできません。

授業科目	授業番号： 421			担当者	口脇 淳子
	PCデータ活用			授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【到達目標】表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 Excel の起動と画面の確認 文字入力の確認</p> <p>第 2回 簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認</p> <p>第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用</p> <p>第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線</p> <p>第 5回 データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など）</p> <p>第 6回 データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など）</p> <p>第 7回 データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUP など）</p> <p>第 8回 各関数を利用した実習問題（小テスト）</p> <p>第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど）</p> <p>第 10回 円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など）</p> <p>第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など）</p> <p>第 12回 データベース入門：データベース作成上の各機能</p> <p>第 13回 データの集計（並べ替え・抽出 ほか）</p> <p>第 14回 データの集計（ピボットテーブル）</p> <p>第 15回 前期のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。				
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋出席授業のプリント提出状況（10%）				
実務経験について	企業、個人への講習会講師				

授業科目	授業番号： 422		担当者	口脇 淳子	
	PCデータ活用実習		授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【到達目標】 前期に習得した機能を活用し、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。授業は、検定対策として問題形式で進めていくが業務遂行に必要な内容を学習する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 前期授業の復習</p> <p>第 2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第 4回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第 5回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 6回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第 7回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 8回 検定対策問題：グラフの軸を指定する問題 知識科目問題</p> <p>第 9回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 10回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第 11回 検定対策問題：アンケートデータの集計 知識科目問題</p> <p>第 12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第 13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第 14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第 15回 後期のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業後、同じ問題を時間を計って解いてみる				
成績評価の方法	期末試験 (80%) + 出席授業のプリント提出状況 (20%)				
実務経験について	企業、個人への講習会講師				

授業科目	授業番号： 423			担当者	上野 祐子
	PCアプリケーション実習 (A)			授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	第7回～9回は、1～3名のグループで自由にテーマを決めて、動画作成をしてもらう。作成した動画は授業内で公開する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布する。 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション, ホームページ作成 (HTML: 見出し, 画像, 箇条書き, ハイパーリンク, 表)</p> <p>第 2回 ホームページ作成 2 (HTML: 段落, 水平線, 地図, 動画)</p> <p>第 3回 ホームページ作成 3 (CSS: Web ページのデザイン設定, 鑑賞会) 第 1回課題</p> <p>第 4回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第 5回 プログラミング 2 (Scratch)</p> <p>第 6回 プログラミング 3 (言語は受講者の希望により決定する) 第 2回課題</p> <p>第 7回 動画編集 (動画編集ソフトの使用法: 起動, トリミング, 画面切り替え, クリップの速度, 音楽, オーバーレイ, タイトルなど)</p> <p>第 8回 動画編集 2 (グループワーク)</p> <p>第 9回 動画編集 3 (グループワーク) 第 3回課題</p> <p>第 10回 データベース (Excel のデータベース機能)</p> <p>第 11回 データベース 2 (Microsoft Access: テーブル, クエリ)</p> <p>第 12回 データベース 3 (Microsoft Access: テーブル, クエリ, フォーム) 第 4回課題</p> <p>第 13回 PDF 編集 (Adobe Acrobat Reader: PDF の作成と閲覧)</p> <p>第 14回 PDF 編集 2 (Adobe Acrobat Pro: しおり付き PDF の作成, フォームの作成, ファイルの統合, 透かし文字の設定, セキュリティ設定)</p> <p>第 15回 PDF 編集 3 (Adobe Acrobat Pro: 図形や文字の入力, 電子印鑑) 第 5回課題</p>				
授業外学習 (予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。				
成績評価の方法	5回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座 (パソコン講座) 講師。				

授業科目	授業番号： 424			担当者	上野 祐子
	PCアプリケーション実習 (B)			授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	後期	1単位	選択	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	第7回～9回は、1～3名のグループで自由にテーマを決めて、動画作成をしてもらう。作成した動画は授業内で公開する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適宜プリントを配布する。 (2) 授業にて紹介する。				
授業 スケジュール	第1回 オリエンテーション, ホームページ作成 (HTML: 見出し, 画像, 箇条書き, ハイパーリンク, 表) 第2回 ホームページ作成2 (HTML: 段落, 水平線, 地図, 動画) 第3回 ホームページ作成3 (CSS: Webページのデザイン設定, 鑑賞会) 第1回課題 第4回 プログラミング (Scratch) 第5回 プログラミング2 (Scratch) 第6回 プログラミング3 (言語は受講者の希望により決定する) 第2回課題 第7回 動画編集 (動画編集ソフトの使用法: 起動, トリミング, 画面切り替え, クリップの速度, 音楽, オーバーレイ, タイトルなど) 第8回 動画編集2 (グループワーク) 第9回 動画編集3 (グループワーク) 第3回課題 第10回 データベース (Excelのデータベース機能) 第11回 データベース2 (Microsoft Access: テーブル, クエリ) 第12回 データベース3 (Microsoft Access: テーブル, クエリ, フォーム) 第4回課題 第13回 PDF編集 (Adobe Acrobat Reader: PDFの作成と閲覧) 第14回 PDF編集2 (Adobe Acrobat Pro: しおり付きPDFの作成, フォームの作成, ファイルの統合, 透かし文字の設定, セキュリティ設定) 第15回 PDF編集3 (Adobe Acrobat Pro: 図形や文字の入力, 電子印鑑) 第5回課題				
授業外学習 (予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。				
成績評価の方法	5回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座 (パソコン講座) 講師。				

授業科目	授業番号： 425		担当者	船津 潤	
	日本経済論		授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について特に産業政策、そして構造改革とアベノミクス以降の政策に焦点を当てながら講義します。また、過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに、石油危機、プラザ合意、日米構造協議、グローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら授業を進めます。</p> <p>【到達目標】日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し、説明できるようになる 海外とのつながりを踏まえて日本経済の現状と課題について自分の見解が述べられるようになる</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>ほぼ毎回の授業で、こちらから質問を出して受講者の皆さんに発言してもらう機会を積極的に設けます。しかし、人前での発言が苦手な方は、配慮しますので、その旨、遠慮なく申し出てください。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし 適宜資料を配付</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第4版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第 2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第 3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等</p> <p>第 4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等</p> <p>第 5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第 6回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴、グループ内の結び付き、現在の状況等</p> <p>第 7回 行政指導：勸告操短、企業の反発等</p> <p>第 8回 開放経済体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等</p> <p>第 9回 1970年代の日本経済：2度の石油危機、知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第 10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等</p> <p>第 11回 現在の産業政策：産業競争力強化法、現在の産業政策の特徴等</p> <p>第 12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等</p> <p>第 13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等</p> <p>第 14回 構造改革と現在の政策：構造改革下の福祉改革の内容と特徴、近年の政策との比較等</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>授業後は復習し、不明確な点等は遠慮なく質問に来てください。また、普段から日本経済関連のニュース（できれば外国のメディアを含む複数）に注目すること、特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等で調べ、検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。</p>				
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 426			担当者	船津 潤
	財政学			授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 財政に関する基本的な概念や理論、日本の基礎的な制度の内容、実態、特徴、課題に対する理解を深めること</p> <p>【概要】 テーマを踏まえて、基礎的な制度について、財政民主主義という財政制度の根幹、公共部門と民間部門の関係、歴史的推移、グローバル化の影響を強く意識しながら授業を進めます。この講義で、マクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのか、また、他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても理解してもらえそうです。</p> <p>【到達目標】 財政制度を理解した上で、政府活動に関する自分の評価を述べられるようになる 理論がどのように活用されているのか理解する 財政の影響を踏まえて経済・社会の動向を把握できるようになる</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>ほぼ毎回の授業で、こちらから質問を出して受講者の皆さんに発言してもらい機会を積極的に設けます。しかし、人前での発言が苦手な方は、配慮しますので、その旨、遠慮なく申し出てください。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし 適宜資料を配付</p> <p>(2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 神野直彦著『財政学 第3版』有斐閣(2022年) 渡邊和紀編著『図説 日本の財政 各年度版』財経詳報社</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第 2回 財政(1)：財政の定義、財政学の特徴、政府に対する評価の揺れ等</p> <p>第 3回 財政(2)：市場の失敗、財政民主主義と制度化に必要な原則等</p> <p>第 4回 予算(1)：定義、役割、政府と議会の役割分担、予算原則等</p> <p>第 5回 予算(2)：予算の種類、特別会計と「埋蔵金」、改革の方向等</p> <p>第 6回 経費(1)：定義、主要な分類、経費膨張の法則、転位効果等</p> <p>第 7回 経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等</p> <p>第 8回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等</p> <p>第 9回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等</p> <p>第 10回 公債(1)：定義、民間債務・租税との対比、公債の種類等</p> <p>第 11回 財政投融资：財投債と財政投融资、2001年度の改革、批判と今後の展望等</p> <p>第 12回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等</p> <p>第 13回 財政の国際化：国際公共財、国際的なODA改革の動向等</p> <p>第 14回 財政改革を考える：社会の変化と財政、財政危機とは、財政改革で求められる視点等</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>授業後は復習し、不明確な点等は遠慮なく質問に来てください。また、講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること、普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数、加えて日本関連だけでなく、諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。</p>				
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 427		担当者	前田 千春	
	農業経済論		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について学ぶ。</p> <p>【概要】日本の農業・農村は、農業者の減少および高齢化、耕作放棄地の増加といった様々な課題に直面している。本講義では、農業の生産・流通の仕組みや日本農業の展開過程を学ぶとともに、現代の農業・農村に関する諸課題とその原因を世界情勢や経済発展と関連付けながら考察し、これからの日本農業について考える。</p> <p>【到達目標】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について理解し、日本農業の展望について考える能力を身に付ける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	15回中2回程度、講義内にグループで話し合う時間を設けます。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房 (2018年) 八木宏典監修『最新版 図解 知識ゼロからの現代農業入門』家の光協会 (2019年)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：農業・農村の基礎知識</p> <p>第 2回 日本の農産物需給と食料事情</p> <p>第 3回 食の安全に向けた取り組み</p> <p>第 4回 日本農業の展開過程</p> <p>第 5回 農業協同組合</p> <p>第 6回 稲作</p> <p>第 7回 園芸作物</p> <p>第 8回 工芸作物</p> <p>第 9回 畜産</p> <p>第 10回 日本の農業・農村の現状と課題</p> <p>第 11回 日本農業の新たな取り組み</p> <p>第 12回 世界の農産物需給と食料事情</p> <p>第 13回 諸外国の農業と農業政策</p> <p>第 14回 途上国経済と農業</p> <p>第 15回 まとめ：これからの日本農業</p>				
授業外学習 (予習・復習)	講義ノートおよび参考文献を活用して講義レポートに取り組むこと。				
成績評価の方法	講義レポート (60%)、期末レポート (40%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 428			担当者	未定
	ファイナンス論			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 429			担当者	カムチャイ・ライサミ
	経済学史			授業外対応	講義終了時
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。</p> <p>【概要】 経済学の時代的要請と経済学者の人となり経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。</p> <p>【到達目標】 経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じてその都度指示する。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 経済学史の方法と範囲</p> <p>第 2回 重商主義の経済思想：マリーンズ、ミッセルデン、マン、スチュアート</p> <p>第 3回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴー</p> <p>第 4回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム</p> <p>第 5回 古典学派の生成：スミス</p> <p>第 6回 古典学派の発展：マルサス、リカード</p> <p>第 7回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル</p> <p>第 8回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシュャー、ヒルデブラント、クニース</p> <p>第 9回 マルクス学派：マルクス</p> <p>第 10回 限界革命の先駆者達：テューネン、ゴッセン、デュピュイ</p> <p>第 11回 限界革命：クールノー、ジェヴォンズ</p> <p>第 12回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク</p> <p>第 13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート</p> <p>第 14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー</p> <p>第 15回 ケインズ革命：ケインズ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 430			担当者	山口 祐司
	経済学特講			授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】第二次世界大戦後の世界は、「パクス・アメリカナ」と呼ばれ、アメリカが国際経済、国際政治の枠組みをリードしてきました。しかし冷戦が終結して30年以上経った現在、米中対立に見られるように、アメリカの圧倒的な優位は失われつつあるように見えます。この授業では、アメリカの超大国としての経済的発展とその限界について、アメリカ国内および国際経済の歴史という観点から学んでいきます。</p> <p>【到達目標】アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>毎回授業の最後に、その日の授業で学んだことや質問を200字以上でコメントカードにまとめて提出してもらいます。出された質問の中から授業理解に関わって重要なものについて、翌週解説します。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 講義時に提示</p>				
授業 スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第2回 アメリカ経済の勃興(1)大量生産体制 第3回 アメリカ経済の勃興(2)債務国から世界最大の債権国へ 第4回 大恐慌と第二次世界大戦(1)狂騒の1920年代 第5回 大恐慌と第二次世界大戦(2)保護貿易と世界恐慌 第6回 大恐慌と第二次世界大戦(3)ニューディールと戦争 第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策(1)ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策(2)ケインズ政策と持続的経済成長 第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策(3)ドル危機と石油危機 第10回 新自由主義の興隆(1)レーガノミクスと金融化 第11回 新自由主義の興隆(2)グローバルサプライチェーンの形成 第12回 新自由主義の興隆(3)先端技術とイノベーション 第13回 新自由主義の帰結(1)リーマンショック 第14回 新自由主義の帰結(2)格差問題のゆくえ 第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。</p>				
成績評価の方法	<p>レポート(60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ(40%)</p>				
実務経験について	<p>なし。</p>				

授業科目	授業番号： 431			担当者	西原 誠司
	国際経済論			授業外対応	メール・Line で連絡。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】Love & Peace の経済学—国際化する経済と「戦争なき世界」の実現可能性を考える</p> <p>【概要】ナチスドイツのポーランド侵攻を契機に始まった第二次世界大戦は、600万人のユダヤ人を含む6000万人の死者をだし、終結した。大戦後、様々な紛争・戦争は起こったが、第三次世界大戦は、起こっていない。では、なぜ、世界戦争が起こらなかったのか。このことの原因を、グローバル化した経済に求め、9. 11以後多発するテロをなくす条件を考える。</p> <p>【到達目標】グローバル化した経済（国際経済）の現段階を認識することによって、どうすれば世界平和を実現することができるのかを考え、行動する力を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 西原誠司『グローバルイゼーションと民族・国家を超える共同体』（文理閣、2022年）</p> <p>(2) 朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、2015年）西原誠司『グローバルイゼーションと現代の恐慌』（文理閣、2000年）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 はじめに—アンネ・フランクの悲劇を繰り返さないために</p> <p>第 2回 資本主義の発展と貧困・恐慌・戦争—19世紀資本主義と20世紀資本主義の違い</p> <p>第 3回 資本主義のグローバル化と戦争を引き起こす政治・経済的条件の変化</p> <p>第 4回 資本主義のグローバル化と国際的地域経済ブロックの登場</p> <p>第 5回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ① 戦争の原因となった資源の共同管理</p> <p>第 6回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ② 関税同盟・市場統合・通貨統合</p> <p>第 7回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ③ 新しい国際通貨ユーロ登場の意味と金融危機</p> <p>第 8回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ④ 人間と環境にやさしい新しい社会をめざして</p> <p>第 9回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ⑤ 多文化主義・多言語主義とEU統合</p> <p>第10回 最後の帝国主義アメリカ ①—ふたつの大戦による西欧の没落と米国の覇権の確立</p> <p>第11回 最後の帝国主義アメリカ ②—多国籍企業の対外進出と経済競争・ベトナム戦争の敗北</p> <p>第12回 最後の帝国主義アメリカ ③—米・ソ冷戦体制の終焉とアメリカの「復活」・「没落」</p> <p>第13回 動揺する西欧世界とイスラム世界—モダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩</p> <p>第14回 台頭する中国の新シルクロード戦略と「平和国家」・日本の役割</p> <p>第15回 おわりに—杉原千畝・チャプリン・中村哲の生き方に学ぶ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。				
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験。				
実務経験について					

授業科目	授業番号： 432			担当者	未定
	国際立地論			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 433			担当者	山本 一哉																																													
	アジア経済論			授業外対応	講義終了時（メールでは随時）																																													
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]																																													
	1,2,3年	前期	2単位	選択	講義方式																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】【テーマ】 アジア諸国の経済発展と課題を学ぶ</p> <p>【概要】【概要】 本講義では、東アジア、東南アジア、南アジア諸国の経済発展と構造変化を学ぶとともに、各国経済が抱える課題やアジア域内における相互依存関係（貿易・投資）の深化、また日本とアジア諸国との経済関係等について解説する。特に、アジアだけでなく世界において政治・経済的なプレゼンスを急激に高めつつある中国経済について詳しく解説する。</p> <p>【到達目標】【到達目標】 アジア諸国の経済発展の現状、要因、プロセスと各国が抱える問題点について理解する。</p>																																																	
学生の主体的・対話的な学び	授業中に質問を募り、授業で解説を行う。																																																	
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント（使用しない。講義の際にレジュメ・資料を配付する）。</p> <p>(2) レジュメに記載する。</p>																																																	
授業 スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>ガイダンス</td> <td>本講義の概要と進め方について</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>日本の経済発展</td> <td>戦後の高度経済成長</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>東アジア諸国の経済発展と課題①</td> <td>韓国と台湾</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>東アジア諸国の経済発展と課題②</td> <td>香港とシンガポール</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>東南アジア諸国の成長戦略と構造変化①</td> <td>タイ・マレーシア</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>東南アジア諸国の成長戦略と構造変化②</td> <td>フィリピン・インドネシア</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>東南アジア諸国の成長戦略と構造変化③</td> <td>ベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>国際的な資本移動とアジア通貨危機</td> <td>東南アジア・韓国</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>中国の「改革開放」戦略と経済発展 外開放</td> <td>制度改革、経済の自由化・市場化、対</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>中国の経済発展と経済格差の拡大</td> <td>地域発展戦略の転換と産業集積</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>中国における人民元改革 国際化・資本取引の自由化</td> <td>為替レート制度改革・人民元</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>中国の貿易・直接投資の拡大</td> <td>一帯一路戦略・米国との通商摩擦</td> </tr> <tr> <td>第 13 回</td> <td>南アジア諸国の経済発展</td> <td>インド、パキスタン、バングラデシュ</td> </tr> <tr> <td>第 14 回</td> <td>日本とアジア諸国の貿易と投資</td> <td>域内分業と相互依存の進展</td> </tr> <tr> <td>第 15 回</td> <td>アジア諸国の抱える諸問題</td> <td>少子高齢化・環境問題・格差問題</td> </tr> </table>					第 1 回	ガイダンス	本講義の概要と進め方について	第 2 回	日本の経済発展	戦後の高度経済成長	第 3 回	東アジア諸国の経済発展と課題①	韓国と台湾	第 4 回	東アジア諸国の経済発展と課題②	香港とシンガポール	第 5 回	東南アジア諸国の成長戦略と構造変化①	タイ・マレーシア	第 6 回	東南アジア諸国の成長戦略と構造変化②	フィリピン・インドネシア	第 7 回	東南アジア諸国の成長戦略と構造変化③	ベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展	第 8 回	国際的な資本移動とアジア通貨危機	東南アジア・韓国	第 9 回	中国の「改革開放」戦略と経済発展 外開放	制度改革、経済の自由化・市場化、対	第 10 回	中国の経済発展と経済格差の拡大	地域発展戦略の転換と産業集積	第 11 回	中国における人民元改革 国際化・資本取引の自由化	為替レート制度改革・人民元	第 12 回	中国の貿易・直接投資の拡大	一帯一路戦略・米国との通商摩擦	第 13 回	南アジア諸国の経済発展	インド、パキスタン、バングラデシュ	第 14 回	日本とアジア諸国の貿易と投資	域内分業と相互依存の進展	第 15 回	アジア諸国の抱える諸問題	少子高齢化・環境問題・格差問題
第 1 回	ガイダンス	本講義の概要と進め方について																																																
第 2 回	日本の経済発展	戦後の高度経済成長																																																
第 3 回	東アジア諸国の経済発展と課題①	韓国と台湾																																																
第 4 回	東アジア諸国の経済発展と課題②	香港とシンガポール																																																
第 5 回	東南アジア諸国の成長戦略と構造変化①	タイ・マレーシア																																																
第 6 回	東南アジア諸国の成長戦略と構造変化②	フィリピン・インドネシア																																																
第 7 回	東南アジア諸国の成長戦略と構造変化③	ベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展																																																
第 8 回	国際的な資本移動とアジア通貨危機	東南アジア・韓国																																																
第 9 回	中国の「改革開放」戦略と経済発展 外開放	制度改革、経済の自由化・市場化、対																																																
第 10 回	中国の経済発展と経済格差の拡大	地域発展戦略の転換と産業集積																																																
第 11 回	中国における人民元改革 国際化・資本取引の自由化	為替レート制度改革・人民元																																																
第 12 回	中国の貿易・直接投資の拡大	一帯一路戦略・米国との通商摩擦																																																
第 13 回	南アジア諸国の経済発展	インド、パキスタン、バングラデシュ																																																
第 14 回	日本とアジア諸国の貿易と投資	域内分業と相互依存の進展																																																
第 15 回	アジア諸国の抱える諸問題	少子高齢化・環境問題・格差問題																																																
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示																																																	
成績評価の方法	筆記試験（100%）																																																	
実務経験について	なし																																																	

授業科目	授業番号： 434			担当者	大重 康雄
	外国貿易論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 グローバル経済下の日本という視点でとらえた貿易取引とその課題について考える</p> <p>【概要】 貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し、変化する貿易の現状と国際間で発生する様々な課題を最新の報道資料やシンクタンク・公的機関等のデータを使い考える。</p> <p>【到達目標】 貿易取引や外国為替の基本的仕組み理解し、国際経済の動静に対し自分の見解が持てる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) グローバル・エコノミー第3版 (有斐閣アルマ)</p> <p>(2) 講師作成プリント 毎回配付</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 開講 貿易と私たちの暮らし</p> <p>第2回 自由貿易のもたらす利益</p> <p>第3回 新古典派貿易理論を学ぶ</p> <p>第4回 世界貿易機関 (WTO) と 自由貿易の歩み</p> <p>第5回 国際収支からみた日本の貿易</p> <p>第6回 外国為替市場と為替レート</p> <p>第7回 トランプ関税と貿易摩擦</p> <p>第8回 貿易決済と国際金融</p> <p>第9回 国際貿易の論点 中間まとめ (自由討論)</p> <p>第10回 世界の地域貿易協定 (FTA/EPA) の現状</p> <p>第11回 東アジア経済の発展と 日本貿易</p> <p>第12回 鹿児島県の貿易取引の現状</p> <p>第13回 グローバル・バリューチェーン (GVC) の変容と日本貿易</p> <p>第14回 カーボンニュートラル 開発と環境を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	シラバスに沿って予習・復習し、質問すべきことをまとめておくこと。				
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業への取り組み及び質問・発言内容 (20%)				
実務経験について	地域金融機関行員としての実務経験 (外貨資金取引・貿易投資相談業務など)、AIBA 認定貿易アドバイザー (#018)				

授業科目	授業番号： 435			担当者	福田 忠弘
	国際関係論			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに与えられた質問への解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。 (2) 適宜、紹介する。				
授業 スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目的、方法 第 2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか 第 3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化 第 4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1 第 6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2 第 7回 国際関係のなりたち4：核兵器について 第 8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム 第 9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序 第 10回 国際社会における諸問題1：グローバル化と貧困問題 第 11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発 第 12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題 第 13回 国際社会における諸問題4：保守化する世界 第 14回 国際社会における諸問題5：コロナ、ウクライナ後の社会 第 15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 436			担当者	福田 忠弘
	アジア事情			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア，東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは，地理，歴史，言語，文化，宗教，民族など，すべての面において多様である。本講義では，「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも，「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化，現代においては脱植民地化，国民国家建設，リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また，最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し，分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに出された質問への解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。 (2) 適宜、紹介する。				
授業 スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目的と方法 第 2回 アジアの巨大遺跡：アンコールワット 第 3回 アジアの巨大遺跡：バガン 第 4回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第 5回 東南アジアの基本情報：地理や気候 第 6回 海域アジア：海を通した結びつき（1） 第 7回 海域アジア：海を通した結びつき（2） 第 8回 海域アジア：海を通した結びつき（3） 第 9回 歴史的形成1：植民地の様子 第10回 歴史的形成2：植民地からの独立（1） 第11回 歴史的形成3：植民地からの独立（2） 第12回 東南アジア1：インドシナ3国 第13回 東南アジア2：タイ、ミャンマー、マレーシア 第14回 アジアにおける協力体制：ASEANを中心とする協力 第15回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	レポート（100%）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 437			担当者	前田 千春
	地域経済論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の地域経済の構造を学び、地域経済の発展について考察する。</p> <p>【概要】人口減少や高齢化により地域経済の活性化は日本において喫緊の課題となっている。本講義では、地域経済の構造やその変化を捉える視点を学び、具体的な事例の分析を通じて地域経済の発展について考察する。</p> <p>【到達目標】日本の地域経済の構造とその実態を理解できる。地域経済を分析し、発展に向けた考察ができるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	15回中、2回のグループワーク、1回のグループ発表を行います。授業後にフォームで質問を募り、次回の授業で解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 松原宏編著『地域経済論入門 改訂版』古今書院 (2022年)				
授業 スケジュール	第 1回 ガイダンス：「地域」とは何か 第 2回 地域経済の基礎理論 第 3回 地域経済循環 第 4回 地域経済の実態 第 5回 地域経済に関する統計 第 6回 グループワーク①：地域経済統計の活用 第 7回 大都市と地方都市 第 8回 工業都市 第 9回 農業地域 第 10回 山村地域 第 11回 地場産業地域 第 12回 第三次産業地域 第 13回 地域経済の成長理論 第 14回 グループワーク②：地域経済政策を考える 第 15回 グループ発表、まとめ：地域経済の発展に向けて				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。				
成績評価の方法	講義レポート (40%)、グループ発表 (10%)、期末レポート (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 438		担当者	前田 千春	
	地域産業政策		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域産業政策の理論と事例を学び、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【概要】 地域産業政策とは国や地方自治体が地域の活性化のために産業振興等を行う政策のことである。本講義では、日本の地域を取り巻く現状と地域産業政策の必要性について学ぶとともに、各地で行われている地域産業政策の効果を考察し、これからの地域産業政策の在り方を探る。</p> <p>【到達目標】 地域産業政策の理論および具体的な取り組みを理解できる。地域が直面する課題を把握し、今後の地域産業政策の在り方や方向性を提示できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	15回中、2回のグループワーク、1回のグループ発表を行います。授業後にフォームで質問を募り、次回の授業で解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 白須正・細川孝 編『地域産業政策の新展開 京都市を中心とした歴史研究と比較研究を踏まえて』文理閣 (2023年)				
授業 スケジュール	第 1回 ガイダンス：日本の地域を取り巻く現状 第 2回 人口移動と地域間格差 第 3回 地域産業政策の変遷 第 4回 地域産業政策の事例①：製造業・工業 第 5回 地域産業政策の事例②：農業 第 6回 地域産業政策の事例③：林業 第 7回 地域産業政策の事例④：観光業 第 8回 地域産業政策の事例⑤：離島 第 9回 鹿児島県の地域産業 第 10回 グループワーク①：鹿児島県を事例に地域産業政策を考える 第 11回 地方創生にかかる制度・仕組み 第 12回 海外の地域産業政策① 第 13回 海外の地域産業政策② 第 14回 グループワーク②：地域産業政策の作成と発表 第 15回 グループ発表、まとめ：これからの地域産業政策の在り方				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。				
成績評価の方法	講義レポート (40%)、グループ発表 (10%)、期末レポート (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 439		担当者	船津 潤	
	地方財政論		授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地方財政に関する基本的な概念や理論、日本の制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】 地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、地方財政に関する基本的な概念や理論、そして日本の制度について講義します。ここでは、地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤、地方財政が改革を求められるグローバル化などの背景、そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら授業を進めます。</p> <p>【到達目標】 日本の制度について理解を深め、説明できるようになる 地方財政について考察し、自分の見解を述べられるようになる 地域の課題を見出し、解決策を提案できるようになるための基礎力を身につける</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>ほぼ毎回の授業で、こちらから質問を出して受講者の皆さんに発言してもらう機会を積極的に設けます。しかし、人前での発言が苦手な方は、配慮しますので、その旨、遠慮なく申し出てください。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし 適宜資料を配付</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷 金澤史男編著『現代の公共事業 国際経験と日本』日本経済評論社(2003年)</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明 第 2回 地方自治(1)：定義、地方政府の特徴、地方分権が求められる背景等 第 3回 地方自治(2)：グローバル化の影響、水道の民活等 第 4回 地方予算(1)：予算の役割、地方予算の特徴、中央と地方の相互依存関係等 第 5回 地方予算(2)：日本の制度の特徴、課題、日本の政府間関係の特徴の影響等 第 6回 地方の決算：定義、日本の制度と問題点、外部監査、市民オンブズマン等 第 7回 地方の経費：定義、主な分類とその見方、都道府県と市町村の違い等 第 8回 地方の事務：機関委任事務、自治事務、法定受託事務等 第 9回 国庫支出金(1)：定義、求められる役割、配慮すべき原則、三位一体の改革等 第 10回 国庫支出金(2)：実態、問題点等 第 11回 地方交付税(1)：財政調整制度とは、地方交付税の制度の内容等 第 12回 地方交付税(2)：機能、問題点等 第 13回 地方債：定義、適債事業、2006年度からの変化等 第 14回 住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について 第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>				
授業外学習 (予習・復習)	<p>授業後は復習し、不明確な点等は遠慮なく質問に来てください。また、講義の前後に総務省や自治体のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことや議論したいことが出てきたら、遠慮なく声をかけてください。</p>				
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 440			担当者	丸田 真悟
	非営利組織論			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1.2.3年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における非営利組織の役割と課題そして可能性について多角的に学ぶ</p> <p>【概要】非営利組織（NPO）は、医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方で NPO を巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義では NPO の概念と組織運営について考えると共に、現代日本社会における NPO の役割と課題、これからの可能性について考えます。</p> <p>【到達目標】NPO に関する基本的な知識を習得し、現代社会における NPO の役割と課題、可能性を考える基盤を養います。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	後半の 3 回は、5 名前後のグループで具体的に自分たちの NPO を立ち上げるグループワークをおこないます。また、前週までに出た質問は授業で解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 宮垣元『NPO とは何か』中公新書（2024）、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣（2017）ほか随時紹介します</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 非営利組織（NPO）とは何か：「非営利」の意味、NPO の定義について考えます。</p> <p>第 2 回 NPO とボランティア：NPO を支える理念について考えます。</p> <p>第 3 回 NPO の存在理由：現代社会の中で存在感を増している理由を考えます。</p> <p>第 4 回 NPO の世界 1:様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第 5 回 NPO の世界 2:様々な NPO の活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第 6 回 NPO にかかわる制度と政策 1：様々な非営利組織に関する制度について考えます。</p> <p>第 7 回 NPO にかかわる制度と政策 2：NPO 法を中心に運営や税に関する制度について考えます。</p> <p>第 8 回 行政、企業と NPO：行政や企業との「協働」・「パートナーシップ」について考えます。</p> <p>第 9 回 NPO のマネジメント 1：NPO の経営管理について考えます。</p> <p>第 10 回 NPO のマネジメント 2：NPO の経営戦略について考えます。</p> <p>第 11 回 NPO のマネジメント 3：NPO の資金調達と評価手法について考えます。</p> <p>第 12 回 〈WS〉NPO をつくる 1：具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第 13 回 〈WS〉NPO をつくる 2：具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第 14 回 〈WS〉NPO をつくる 3：具体的に NPO を考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第 15 回 まとめ：NPO の可能性について考えます。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート（70%）＋授業ごとに実施する小論文（30%）				
実務経験について	認定 NPO 法人理事長（～2025.9）				

授業科目	授業番号： 441			担当者	藤野 博行
	労働法			授業外対応	基本的にいつでも対応します。
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】労働者として知っておくべき知識と、その知識を活用して考える力を育みます。</p> <p>【概要】あまり意識していないかもしれませんが、みなさんは、アルバイトや卒業後に企業等で働く際に雇用契約を結びます。そして、働く皆さんを守ってくれる法律、それが労働法です。本科目は、労働法のうち、皆さんがアルバイトや社会に出たときに知っておいた方が良い基本的な知識を講義するほか、簡単な課題についてグループで考えます。</p> <p>【到達目標】①労働法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②グループで意見を出し合いながら課題について論理的に考え、他者に自分の意見をわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる</p>				
学生の主体的・対話的な学び	<p>ほぼ毎回グループワークを実施。ランダムに 2~4 人組を作り、課題について考えてもらいます。グループワークで考えていただいたアイデア等については、基本的に web 上のツール (microsoft forms や slido) に入力してもらいますが、たまに指名して発表を求めることもあります。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (資料を配付します)</p> <p>(2) 必要に応じて提示します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ①ガイダンス, ②アイスブレイク</p> <p>第 2 回 労働法とは (労働基準法・労働契約法)</p> <p>第 3 回 ①就業規則, ②労働契約法の権利義務,</p> <p>第 4 回 ①就職活動と労働法 (内々定・内定・内定取消, 試用期間)</p> <p>第 5 回 ①労働条件の変更, ②転配・出講・転籍</p> <p>第 6 回 ①労働時間とはなにか?, ②様々な労働形態</p> <p>第 7 回 ①時間外労働, ②前半のまとめ</p> <p>第 8 回 ①中間テスト, ②みなし労働時間</p> <p>第 9 回 ①中間テストの講評, ②割増賃金, ③年次有給休暇</p> <p>第 10 回 ①産前産後休業, ②育児・介護休業</p> <p>第 11 回 ①雇用における差別の歴史, ②セクシャルハラスメント</p> <p>第 12 回 ①マタニティハラスメント, ②パワーハラスメント</p> <p>第 13 回 労働災害と労災保険制度</p> <p>第 14 回 ①懲戒処分 of 自由と種類, ②解雇と辞職</p> <p>第 15 回 後半の復習とまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	ミニッツペーパーの問題と質問・感想の記述内容 (25 点) 中間試験 (25 点), 期末試験 (50 点)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 442			担当者	福田 忠弘
	地域研究特講			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	前週までに与えられた質問への解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際 NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2 回 世界の現状 1：キーワードから見る国際社会（1）</p> <p>第 3 回 世界の現状 2：キーワードから見る国際社会（2）</p> <p>第 4 回 国際社会の変容（1）：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第 5 回 国際社会の変容（2）：ブレトンウッズ体制の変容</p> <p>第 6 回 国際社会の変容（3）：グローバル化、コロナ、経済安全保障</p> <p>第 7 回 途上国の開発：開発をどのように捉えるか？</p> <p>第 8 回 社会開発への視点（1）：NGO の活躍（1）</p> <p>第 9 回 社会開発への視点（2）：NGO の活躍（2）</p> <p>第 10 回 社会開発への視点（3）：国連と人間開発（1）</p> <p>第 11 回 社会開発への視点（4）：国連と人間開発（2）</p> <p>第 12 回 社会開発への視点（5）：国連と SDGs(1)</p> <p>第 13 回 社会開発への視点（6）：国連と SDGs(2)</p> <p>第 14 回 社会開発への視点（7）：地方自治体と SDGs</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する				
成績評価の方法	試験（100％）によって評価する。				
実務経験について	NGO での勤務経験あり				

授業科目	授業番号： 443			担当者	未定
	地方自治法			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】				
学生の主体的・対話的な学び					
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)				
授業 スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回				
授業外学習 (予習・復習)					
成績評価の方法					
実務経験について					

授業科目	授業番号： 444			担当者	岡村 雄輝
	簿記論Ⅱ			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキストを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰの学習を前提とした講義になります。</p> <p>【到達目標】決算整理手続、補助簿、伝票の記入について理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	受講者同士で相互に教え合う問題演習の時間を設けています。また、毎回の講義においてGoogle フォームで質問・意見・要望を募り、次回の講義で回答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕亘, 片山覚, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』(令和8年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 田口聡志, 廣瀬喜貴, 澤井康毅, 木村太一, 澤田雄介 (共)『簿記論15講』, 新世社。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 簿記一巡の手続きとは? : 仕訳・転記・決算</p> <p>第 2回 売掛金と買掛金 : 人名勘定, 売掛金と元帳と買掛金元帳, 売掛金明細表と買掛金明細表, クレジット売掛金, 前払金と前受金</p> <p>第 3回 その他の債権と債務 : 貸付金と借入金, 未収入金と未払金, 立替金と預り金, 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証金</p> <p>第 4回 受取手形と支払手形 : 手形の意義と補助簿, 手形貸付金と手形借入金, 電子記録債権と債務</p> <p>第 5回 有形固定資産 : 有形固定資産の取得, 減価償却, 有形固定資産の売却</p> <p>第 6回 有形固定資産 : 固定資産台帳, 年次決算と月次決算</p> <p>第 7回 貸倒損失と貸倒引当金 : 貸倒れと貸倒損失, 貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定 資本 : 株式会社の設立と株s期の発行, 繰越利益剰余金, 配当</p> <p>第 8回 収益と費用 : 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い, 消耗品と貯蔵品, 諸会費</p> <p>第 9回 税金 : 租税公課, 法人税, 住民税及び事業税, 消費税</p> <p>第 10回 伝票 : 仕訳帳と伝票, 3伝票制, 伝票から帳簿への記入</p> <p>第 11回 伝票 : 伝票の集計</p> <p>第 12回 財務諸表 : 試算表の作成, 決算整理</p> <p>第 13回 財務諸表 : 精算表の作成, 財務諸表の作成</p> <p>第 14回 総合問題 : 問題演習と解説</p> <p>第 15回 総合問題 : 問題演習と解説</p>				
授業外学習 (予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。				
成績評価の方法	期末テスト100%				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 445			担当者	竹中 啓之
	経営管理論			授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】管理はすべての集団・組織において存在する職能です。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することと定義できます。従って経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能となります。またこの活動を行うのは経営者の役割です。この講義では、経営者が、効率的な組織運営のための工夫や、組織内部の関係者や組織外部の状況に効果的に対処する方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業後に感想・質問などを記入する用紙を提出してもらい、その内容を次回の授業で紹介したり、私からのコメントを加えたりします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する				
授業 スケジュール	第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2 回 経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。 第 3 回 組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。 第 4 回 組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。 第 5 回 組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。 第 6 回 組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。 第 7 回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。 第 8 回 人的資源管理（1）：企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。 第 9 回 人的資源管理（2）：採用管理について説明する。 第 10 回 人的資源管理（3）：人事異動（初任配置・配置転換・昇進など）について説明する。 第 11 回 人的資源管理（4）：人材育成の基礎について説明する。 第 12 回 人的資源管理（5）：人材育成の「熟練」について考えていく。 第 13 回 人的資源管理（6）：人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。 第 14 回 リーダーの役割とは何か：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを考える。 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 446			担当者	近間 由幸
	労務管理論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】 授業では、日本的雇用システムの下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。</p> <p>【到達目標】 歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、現代の企業に望ましい労働環境を考える思考力を身につけることを目指す。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ミニレポート用紙に記入された質問については、適宜次回授業の冒頭に解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（第7版）』有斐閣アルマ</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 イントロダクションー講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第 2回 労務管理とはなにか</p> <p>第 3回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第 4回 組織構造と職務内容</p> <p>第 5回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第 6回 賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第 7回 賃金管理制度のしくみ (2) 一職能給と職務給</p> <p>第 8回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第 9回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第 10回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第 11回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第 12回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第 13回 労務管理と労働組合</p> <p>第 14回 労務管理の国際比較</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、筆記試験 (70%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 447			担当者	劉 美玲
	原価計算			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1.2.3年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原価計算の基礎について学ぶ</p> <p>【概要】原価計算の仕組みを理解することは、原価管理や原価改善のために不可欠である。本講義では、原価計算の基礎について、計算問題に取り組みながら学びます。</p> <p>【到達目標】原価計算の基礎的知識と技術の習得</p>				
学生の主体的・対話的な学び	15回中13回程度、受講生が練習問題を解く時間を設けております。練習時間中、随時質問に解答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高橋賢『テキスト原価会計』（最新版）中央経済社</p> <p>(2) なし</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、原価及び原価計算の基礎知識</p> <p>第 2 回 原価の費目別計算</p> <p>第 3 回 製造間接費の配賦</p> <p>第 4 回 単純個別原価計算</p> <p>第 5 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 1</p> <p>第 6 回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算 2</p> <p>第 7 回 中間テスト</p> <p>第 8 回 単純総合原価計算</p> <p>第 9 回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理</p> <p>第 10 回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算</p> <p>第 11 回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算</p> <p>第 12 回 標準原価計算 1</p> <p>第 13 回 標準原価計算 2</p> <p>第 14 回 直接原価計算</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	中間テスト (30%) 期末テスト (70%)				
実務経験について	なし				

会計学総論、簿記論Ⅰ、簿記論Ⅱ、管理会計論を受講済み、もしくは日商簿記3級を学習済みであることが望ましい。
受講生の会計系履修済み科目の状況や学習進捗状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

授業科目	授業番号： 448			担当者	瀬口 毅士
	経営学特講			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における多国籍企業の動向を知る</p> <p>【概要】本講義では、新聞記事などの各種資料を使用しながら、現代社会における企業の動向について考察することが目的です。特に、われわれの経済・社会に多大な影響を与えている多国籍企業と、その市場戦略に焦点を合わせていきます。授業では、リアクションペーパーや各種ワークを活用することで、双方向の授業を目指します。</p> <p>【到達目標】多国籍企業の現代的特徴を理解する。本講義で学んだ知識や視角を基に、新聞や経済誌などの企業活動に関する情報を理解し、分析できる能力を身に付ける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	新聞記事など資料の読み解きを講義の中核とすることで、学生さんが主体的に学ぶ機会を作ります。また、リアクションペーパーを活用することで双方向の授業を目指します。さらに、個人でのワークまたはグループワークによって自分の考えをまとめたり発信できことを目的とします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2) なし				
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 多国籍企業とは何か：多国籍企業の定義や国内企業との相違について解説する。</p> <p>第 3回 現代企業の動向（1）：各種資料の読み解きを通じて、現代企業の実例を知る。</p> <p>第 4回 現代企業の動向（2）：各種資料の読み解きを通じて、現代企業の実例を知る。</p> <p>第 5回 多国籍企業の活動（1）：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。</p> <p>第 6回 多国籍企業の活動（2）：各種資料を用いて、現代社会における多国籍企業の重要性を考える。</p> <p>第 7回 市場戦略の現代的特徴：現代企業における市場戦略の重要性とその特徴を講義する。</p> <p>第 8回 企業の市場戦略（1）：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。</p> <p>第 9回 企業の市場戦略（2）：各種資料を通じて、市場戦略に関する理解を深める。</p> <p>第 10回 多国籍企業の市場戦略（1）：各種資料を用いて、多国籍企業の市場戦略について理解する。</p> <p>第 11回 多国籍企業の市場戦略（2）：各種資料を用いて、多国籍企業の市場戦略について理解する。</p> <p>第 12回 文化とは何か：文化の定義や企業活動との関連性について解説する。</p> <p>第 13回 多国籍企業の市場戦略と文化の関係：多国籍企業の市場戦略と文化の関係について解説する。</p> <p>第 14回 現代社会と多国籍企業：各種資料によって、社会と多国籍企業との結びつきを検討する。</p> <p>第 15回 まとめ：全体の流れを振り返りながら、講義のポイントについて解説する。</p>				
授業外学習 (予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（60%）＋資料の読み解きなどのワーク（40%）				
実務経験について	なし				

個人のワークにするかグループワークにするかについては、受講人数や受講者の希望に応じて決定します。

授業科目	授業番号： 449		担当者	竹中 啓之	
	情報管理論		授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会における情報への正しい理解と、情報管理の重要性について考えていく。</p> <p>【概要】この授業では、情報とはそもそもどのようなものなのかについて考える。そのため、情報の特性、情報が重要である意味、情報を理解する際の注意点など、「情報の扱い方・読み解き方」について講義する。情報機器を扱う技能やスキル等を取り上げることにはしないが、情報を扱う際に重要だと思われる概念や考え方について、社会科学的な視点から捉えられるような知識や手法を説明し、現在の情報社会のあり方についても考える。</p> <p>【到達目標】今日的な情報の定義を理解する。メディアリテラシーの考え方について理解する。単なるデータと情報の違いを理解し、情報があふれる社会の危険性や問題点について考える。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回授業後に感想・質問などを記入する用紙を提出してもらい、その内容を次回の授業で紹介したり、私からのコメントを加えたりします。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に配布するプリント (2) 講義中に指示する				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2 回 情報とは何か・情報の定義（1）：情報の定義を確認し、「情報」と「データ」の違いなどを説明する。</p> <p>第 3 回 情報とは何か・情報の定義（2）：情報の単位や具体的事例を示して、情報の重要性を理解する。</p> <p>第 4 回 情報社会について取り上げ、「産業の情報化」「情報の産業化」などについて説明する。</p> <p>第 5 回 情報リテラシーについて（1）：情報リテラシーの概要について説明する。</p> <p>第 6 回 情報リテラシーについて（2）：リテラシー能力の必要性について具体的事例を踏まえ説明する。</p> <p>第 7 回 情報リテラシーについて（3）：情報リテラシーとメディアリテラシーの関係について考える。</p> <p>第 8 回 メディアの歴史について（1）：各種メディアについて理解を深める（新聞～テレビ）。</p> <p>第 9 回 メディアの歴史について（2）：各種メディアについて理解を深める（テレビ～ネット）。</p> <p>第 10 回 自分のメディア史を考える：ワークシートを利用して、自分とメディア媒体との関係を考える。</p> <p>第 11 回 情報操作：情報操作とは何かを説明する。</p> <p>第 12 回 炎上について：主にネット上で起こる「炎上」について取り上げ、特徴や対策について考える。</p> <p>第 13 回 情報と編集：情報発信における編集作業の重要性を認識し、編集という考え方の理解を深める。</p> <p>第 14 回 情報化の必要性：現代社会における情報化の必要性とその意味について考える。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。				
実務経験について	なし				

なし

授業科目	授業番号： 450		担当者	宗田 健一	
	会計情報論		授業外対応	講義前後に適宜対応，メール等で対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2,3年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 会計情報の作成方法，伝達方法，利用方法を知る</p> <p>【概要】 会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について，その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。各種分析手法（成長性，収益性，安全性）について学習し，個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際，『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' NETwork））を用いて実際の財務諸表データを入力して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】 会計情報の作成，伝達，利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	各自で，興味関心のある上場会社について調べていただきます。講義中に実施した財務諸表分析の結果を用いて，他の学生とディスカッションしていただきます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 随時紹介				
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：履修登録確認，講義計画に関する説明 第 2回 会計情報の利用者：利害関係者，会計情報の入手方法（EDINETの使い方，アニュアルレポートの入手等） 第 3回 有価証券報告書：全体像，記載内容の確認，分析対象企業の絞り込み 第 4回 会計学と財務情報・非財務情報について 第 5回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA，ROEなど） 第 6回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など） 第 7回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など） 第 8回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など） 第 9回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点，長期的視点など） 第 10回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①） 第 11回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②） 第 12回 時系列分析（2社以上） 第 13回 同業他社比較分析（2社以上） 第 14回 学生による分析報告とディスカッション 第 15回 まとめ：レポート試験の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施				
授業外学習（予習・復習）	復習が大切です。毎回，宿題を課します。				
成績評価の方法	中間レポート 40%，期末レポート 60%				
実務経験について	なし				

会計学総論，簿記論，財務会計論を履修した者，履修中の者が望ましい。

授業科目	授業番号： 451			担当者	瀬口 毅士
	経営戦略論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら、長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、企業の具体例を適宜紹介することで、内容に関する理解を深めるとともに、現代社会における経営戦略に関する思考力や判断力を涵養します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念やそれらの関係性について知る。講義を通じて獲得した知見を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報を理解できるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	毎回のリアクション・ペーパーによって、学んだ内容をまとめたり、分からないところを質問する機会を設けます。また、優れた感想や寄せられた質問を皆の前で取り上げ、具体例を挙げながらフィードバックすることで、質問をしていない学生さんも一緒に考えられる機会を設けます。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。 第 3回 経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業領域）について解説する。 第 4回 規模の経済と範囲の経済：具体的事例に基づき規模の経済と範囲の経済を説明する。 第 5回 垂直統合と水平統合、垂直分業と水平分業：統合と分業について解説する。 第 6回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に講義する。 第 7回 M&A と戦略的提携（1）：実例を紹介しながら、M&A について解説する。 第 8回 M&A と戦略的提携（2）：実例を紹介しながら、戦略的提携について解説する。 第 9回 経験曲線と PLC：PPM の基礎となる、経験曲線と PLC について解説する。 第 10回 PPM（1）：全社的視点から、経営資源の配分について考える。 第 11回 PPM（2）：PPM のメリットとデメリットについて知る。 第 12回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要と 2 つのアプローチを紹介する。 第 13回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に講義する。 第 14回 資源ベース・アプローチ：資源ベース・アプローチの各学説について説明する。 第 15回 まとめ：これまでの講義を振り返りながら、テストについて説明する。				
授業外学習 (予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（90%）＋リアクション・ペーパーや授業に臨む姿勢など（10%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 452			担当者	倉重 賢治
	応用データ活用			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	1単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リレーショナルデータベースの基本操作と Excel を用いた統計処理</p> <p>【概要】この演習の前半では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を学び、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。後半では、Excel を用いた統計処理を学ぶ。</p> <p>【到達目標】・データベースソフト Access の使い方を修得する。</p> <p>・Excel を用いた統計処理を理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 広野忠敏, 『Access 基本&活用マスターブック』株式会社インプレス</p> <p>(2) 特になし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念</p> <p>第 2 回 Access の操作：Access とは</p> <p>第 3 回 Access の操作：テーブルの作成</p> <p>第 4 回 Access の操作：クエリの作成</p> <p>第 5 回 Access の操作：フォームの作成</p> <p>第 6 回 Access の操作：レポートの作成</p> <p>第 7 回 Access の操作：リレーションシップの作成</p> <p>第 8 回 Access の操作：クエリによる複雑な条件設定</p> <p>第 9 回 Access の操作：まとめ</p> <p>第 10 回 Excel による統計処理：基本統計量</p> <p>第 11 回 Excel による統計処理：正規分布</p> <p>第 12 回 Excel による統計処理：相関係数と回帰直線</p> <p>第 13 回 Excel による統計処理：カイ 2 乗検定</p> <p>第 14 回 Excel による統計処理：比率の推定と差の検定</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 453			担当者	倉重 賢治
	プログラミング			授業外対応	適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	1単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	特になし				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) たてばやし淳, 『ExcelVBA 塾』 マイナビ出版 (2) 特になし				
授業 スケジュール	第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 VBA の利用：マクロについて 第 3 回 VBA の利用：セルの操作 第 4 回 VBA の利用：演算と変数 第 5 回 VBA の利用：繰り返し (1) 第 6 回 VBA の利用：繰り返し (2) 第 7 回 VBA の利用：最終行の取得 第 8 回 VBA の利用：条件分岐 (1) 第 9 回 VBA の利用：条件分岐 (2) 第 10 回 VBA の利用：関数の利用 第 11 回 VBA の利用：データ抽出 第 12 回 VBA の利用：シートの操作 第 13 回 VBA の利用：ファイルの操作 第 14 回 VBA の利用：実用マクロ 第 15 回 まとめ				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 454			担当者	岡村 雄輝
	財務会計論			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計のルールと基礎概念を理解する</p> <p>【概要】簿記論では技術的な学習が中心でしたが、本科目は企業が営む主要な活動に焦点を当てて、その結果が財務諸表へと集約される過程を説明し、現代社会のなかで複式簿記を基礎とする会計という計算制度の果たしている役割を学習します。さらに一歩進んで、実際に公表される財務諸表を基礎として、利用者が企業の経営分析を行う方法についても解説します。※簿記論の学修を前提とした講義になります。</p> <p>【到達目標】各企業の採用している会計方法の違いが財務諸表にいかなる影響を与えるか、さらには、そうした会計方法を採用した理由・背景などにも関心を向けるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	グループワーク、プレゼンテーションの時間を設けています。また、毎回の講義において Google フォームで質問・意見・要望を募り、次回の講義で回答します。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（第19版）、有斐閣 桜井久勝『財務会計講義』（第27版）、中央経済社。				
授業 スケジュール	第 1回 ガイダンス：会計のイメージと実像 第 2回 会計の種類と役割：財務会計の社会的位置づけ 第 3回 財務会計のシステムと基本原則：損益計算と資産評価のルール 第 4回 企業の設立と資金調達：必要な資金をどう調達するか 第 5回 仕入と生産活動：営業活動のスタートは仕入と生産 第 6回 販売活動：売上の測定と代金回収 第 7回 設備投資と研究開発①：有形固定資産 第 8回 設備投資と研究開発②：研究開発と無形固定資産 第 9回 資金の管理と運用：本業をサポートする資金運用活動 第 10回 国際活動：外貨表示額を日本円に換算する 第 11回 税金と配当：確定決算主義と余剰金の配当 第 12回 財務諸表の作成と公開：会計情報の内容と意味 第 13回 企業集団の財務報告：グループ全体を統合した情報 第 14回 財務諸表による経営分析：会計情報の利用法 第 15回 まとめ：あらためて会計とはなにか？				
授業外学習 (予習・復習)	復習が大切です。				
成績評価の方法	中間レポート 30%+期末レポート 70%				
実務経験について	なし				

簿記論Ⅰ、Ⅱを受講済み、あるいは同等の学習歴がなければ十全な理解には至らない。

授業科目	授業番号： 455			担当者	岡村 俊彦
	情報論特講			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2,3年	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ICT (情報通信技術) について実用的, 応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】 ハードウェア, ソフトウェア, ネットワークといった ICT を学び, 日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト (エクセル) などを用いての実用的なデータ解析手法の学習を行う。</p> <p>【到達目標】 実社会において, 自ら ICT 業務に携わり, 効果的, 効率的な活用ができるようになる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	前半は PC の分解・組み立てを各自でおこない, 主体的な学びとする。後半はネットワークの設定, PC の実習を中心に自ら考えて実践的な学びをおこなう。また学生からの ICT に関わる質問に対する解説をおこない, 対話的な学びにつなげる。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM 出版「よくわかるマスター 改訂版 日商 PC 検定試験 2 級 知識科目 公式問題集」およびプリント</p> <p>(2) なし</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1 回 概要説明：授業概要と評価方法の説明</p> <p>第 2 回 ハードとソフト：PC 等の ICT 機器のハードウェア, ソフトウェアの解説</p> <p>第 3 回 コンピュータの内部部品 1：CPU とメモリの解説</p> <p>第 4 回 コンピュータの内部部品 2：ストレージと光学ドライブの解説</p> <p>第 5 回 コンピュータの内部部品 3：ノート PC の内部</p> <p>第 6 回 インターネットとネットワーク 1：TCP/IP の設定</p> <p>第 7 回 インターネットとネットワーク 2：ルーターの役割と設定</p> <p>第 8 回 表計算ソフトの活用 1：差し込み印刷</p> <p>第 9 回 表計算ソフトの活用 2：ウェブクエリ</p> <p>第 10 回 表計算ソフトの活用 3：並べ替えとフィルター</p> <p>第 11 回 表計算ソフトの活用 4：ピボットテーブル</p> <p>第 12 回 表計算ソフトの活用 5：関数の活用 1</p> <p>第 13 回 表計算ソフトの活用 6：関数の活用 2</p> <p>第 14 回 表計算ソフトの活用 7：関数の活用 3</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポートと授業中のおこなう課題を総合的に評価				
実務経験について	なし				

エクセルがある程度できる中級者向けの授業です。初級者の受講はできません。

授業科目	授業番号： 456			担当者	瀬口 毅士
	マーケティング論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	前期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、モノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとってマーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。また、グループ・ワークを取り入れることで、思考力や判断力を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得することで、消費者としてあるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	15 回中、2～3 回のグループワークを通じて、具体的な商品について、マーケティング論で学んだ観点からの分析、他の学生との議論とそのまとめ、皆の前での発表などの主体的な学びを行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2) なし				
授業 スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。 第 3回 グループ・ワーク（1）：身近な商品について考えてみよう。 第 4回 標的市場の選択：STP について解説する。 第 5回 消費者行動分析：消費者の購買行動について理解を深める。 第 6回 競争分析：企業間競争の構造分析の方法を知る。 第 7回 グループ・ワーク（2）－1：STP についてグループで話し合う。 第 8回 グループ・ワーク（2）－2：前回の議論をまとめ、皆の前で発表する。 第 9回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。 第 10回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。 第 11回 流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。 第 12回 流通戦略（2）：チャネル管理と SCM について解説する。 第 13回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを講義する。 第 14回 ブランド戦略：ブランド構築やブランド管理について考える。 第 15回 まとめ：これまでの講義を振り返りながら、テストについて説明する。				
授業外学習 (予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験（80%）＋リアクシヨン・ペーパーやグループ・ワークなど（20%）				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 457			担当者	近間 由幸
	流通論			授業外対応	適宜対応（要予約）
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	後期	2単位	選択	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】小売業態の変化・発展を歴史的に捉える</p> <p>【概要】授業では、現代の小売企業を取り巻く環境や消費者ニーズの多様性に対して、日本の小売企業がどのように対応し、進化してきたのかを歴史的、体系的に考察する。また、このような小売企業の発展とともに現われた現代の流通における課題について検討する。</p> <p>【到達目標】現代の流通業界の具体的な姿について理解し、流通業界に関する知識を身に付け、流通ビジネスの背後にある論理やメカニズムについて考えられる思考力を身につけることを目指す。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ミニレポート用紙に記入された質問については、適宜次回授業の冒頭に解説を行います。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 矢作敏行『コマースの興亡史 商業倫理・流通革命・デジタル破壊』日本経済新聞出版</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨナー流通を取り巻く経済環境</p> <p>第 2回 流通とはなにか</p> <p>第 3回 日本の欧米化と百貨店の誕生</p> <p>第 4回 高度経済成長と総合スーパー</p> <p>第 5回 食品スーパーの革新性</p> <p>第 6回 利便性の追求とコンビニエンス・ストア (CVS)</p> <p>第 7回 ディスカウント・ストアの低価格戦略</p> <p>第 8回 専門量販店の台頭</p> <p>第 9回 ショッピングセンターの商業集積</p> <p>第 10回 インターネット技術と電子商取引 (EC)</p> <p>第 11回 流通構造の変化と小売業態</p> <p>第 12回 小売・流通における労働問題 (1) 一物流危機とトラックドライバー</p> <p>第 13回 小売・流通における労働問題 (2) 一接客販売業の働き方</p> <p>第 14回 現代流通と消費行動の変化</p> <p>第 15回 全体のまとめ</p>				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%), 期末レポート (70%)				
実務経験について	なし				

授業科目	授業番号： 458		担当者	商経学科教員	
	第二部・基礎演習		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	1年	前期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】演習（ゼミナール）の基本的なあり方（運営・議論の仕方など）について学び、学生として必要な作法を身につける。</p> <p>【概要】社会科学系の大学教育の要となるのは「ゼミナール」です。ゼミナールとは司会・報告・問題提起・議論といった対話型の授業であり、学生によって自発的に運営されます。基礎演習はゼミナールに参加する学生に求められる学問的な作法を身につける場です。具体的には、文献の読み方、報告の仕方、レポートの書き方等を学び、演習Ⅰから始まる専門的なゼミナールの予行演習ともいえます。また、学びの作法だけでなく、大学の歩き方（報告・連絡・相談の仕方、様々な窓口・施設での諸手続の仕方等）も身につけます。</p> <p>【到達目標】基本的なゼミナールの運営について理解し、積極的に参加する姿勢を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p> <p>(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 459			担当者	商経学科教員
	第二部・演習 I			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 報告・議論・レポート執筆等を通して、担当教員の専門性を活かしたテーマについて、参加メンバーと一緒に学ぶ。</p> <p>【概要】 基礎演習と同様に本演習も、学生が主体的に参加する対話型の授業であり、それぞれのゼミナールの専門的な基礎知識・基礎概念について、通常の講義よりもさらに一歩進んで理解を深める場です。必要に応じて、工場見学等の企業調査や研究のための合宿などの課外活動を実施することもあります。なお、演習 I・演習 II・卒業研究は同じゼミナールに継続して参加することになります。</p> <p>【到達目標】 ゼミナールのテーマに関する基礎知識・概念について正しく理解する。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p> <p>(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第 10回</p> <p>第 11回</p> <p>第 12回</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回</p> <p>第 15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 460		担当者	商経学科教員	
	第二部・演習Ⅱ		授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	3年	前期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】演習Ⅰから引き続き担当教員の専門性を活かしたテーマについて学びながら、本学での学びの総まとめとなる卒業論文の準備をする。</p> <p>【概要】演習Ⅱは、演習Ⅰの内容・講義形式を継続し、特定の専門分野についてさらに学びを進めます。テキストの読解やフィールドで見聞きした事象について表面的に理解するだけでなく、他の講義・実習科目などで学んだことも総動員しながら、事象の本質に迫るような学習が求められる場でもあります。そのような学習を通して、ゼミナールのテーマについての検討すべき問題点を整理し、卒業論文の執筆準備も進めていきます。</p> <p>【到達目標】ゼミナールのテーマについての学習を通して、検討すべき問題を設定することができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p> <p>(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p>				
授業 スケジュール	<p>第 1回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 461			担当者	商経学科教員
	第二部・卒業研究			授業外対応	講義前後に適宜対応
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	3年	後期	2単位	必修	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】演習Ⅰ，Ⅱを通して学んだテーマを踏まえて、各自で設定した問題について報告・議論を通して考察を深め、卒業論文を執筆する。</p> <p>【概要】卒業研究は商経学科における学びの総決算です。演習Ⅰから継続して学んできたテーマにしたがって卒業論文を執筆します。卒業論文は短期間に一気に書き上げられるほど簡単なものではありません。演習Ⅰから継続してきた専門分野の学習を土台にして、設定した問題に関する文献を渉猟し、必要に応じてフィールドに出て調査することもあります。ゼミナールはその経過を報告し、相互に意見を交わしながら自分なりの答えを見つけ、論文にまとめる場です。</p> <p>【到達目標】自ら設定した問題について、関連文献を渉猟し、調査・考察を重ねて、解答に迫ることができる。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p> <p>(2) ゼミナールごとに異なるため、担当教員が指示します。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。</p> <p>第 2回</p> <p>第 3回</p> <p>第 4回</p> <p>第 5回</p> <p>第 6回</p> <p>第 7回</p> <p>第 8回</p> <p>第 9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>				
授業外学習 (予習・復習)	ゼミナールごとに異なるため、担当教員が説明します。(100%)				
成績評価の方法	ゼミナールごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割や卒業論文などによって総合評価されます。(100%)				
実務経験について	ゼミナールごとに異なります。				

授業科目	授業番号： 462			担当者	担当教員
	社会活動			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	指定なし	通年	2～4単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、地域の非営利組織を中心とした研修先における社会的活動体験を通し、企画・運営能力を養うと同時に地域活動の特色を学ぶ。</p> <p>【概要】地域の公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養うと同時に地域活動の特色を学ぶ。</p> <p>具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】研修先の現場体験で自立的に考え行動できるようになる。地域の活動を主体的におこなう力を身につける。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	研修先との指導、対話を通じ、主体的に行動することを学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 事前指導のなかで指示 (2) 事前指導のなかで指示				
授業 スケジュール	第 1回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3回 事後指導：研修日誌の提出、研修レポートの作成などを行う。 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験(について)					

授業科目	授業番号： 463			担当者	担当教員
	企業研修			授業外対応	
	[履修年次]	[学期]	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
	2年	通年	2単位	選択	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 インターンシップである「企業研修」は、地元民間企業を中心とした研修先において、就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】 県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、地域で働くことの自覚や自信を身につける。具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】 研修先の現場体験で自立的に考え行動できるようになる。自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つ。</p>				
学生の主体的・対話的な学び	研修先との指導、対話を通じ、主体的に行動することを学ぶ。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 事前指導のなかで指示 (2) 事前指導のなかで指示				
授業 スケジュール	第 1回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 第 2回 研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 第 3回 事後指導：研修日誌の提出、研修レポートの作成などを行う。 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回				
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)				
実務経験について					